

14.4

1027

長野縣勢要覽

昭和十一年度



\* 0032432001 \*

0032432-001

14. 4-1027

長野縣勢要覽

長野縣總務部統計課・編

長野縣

昭和11, 12, 14年

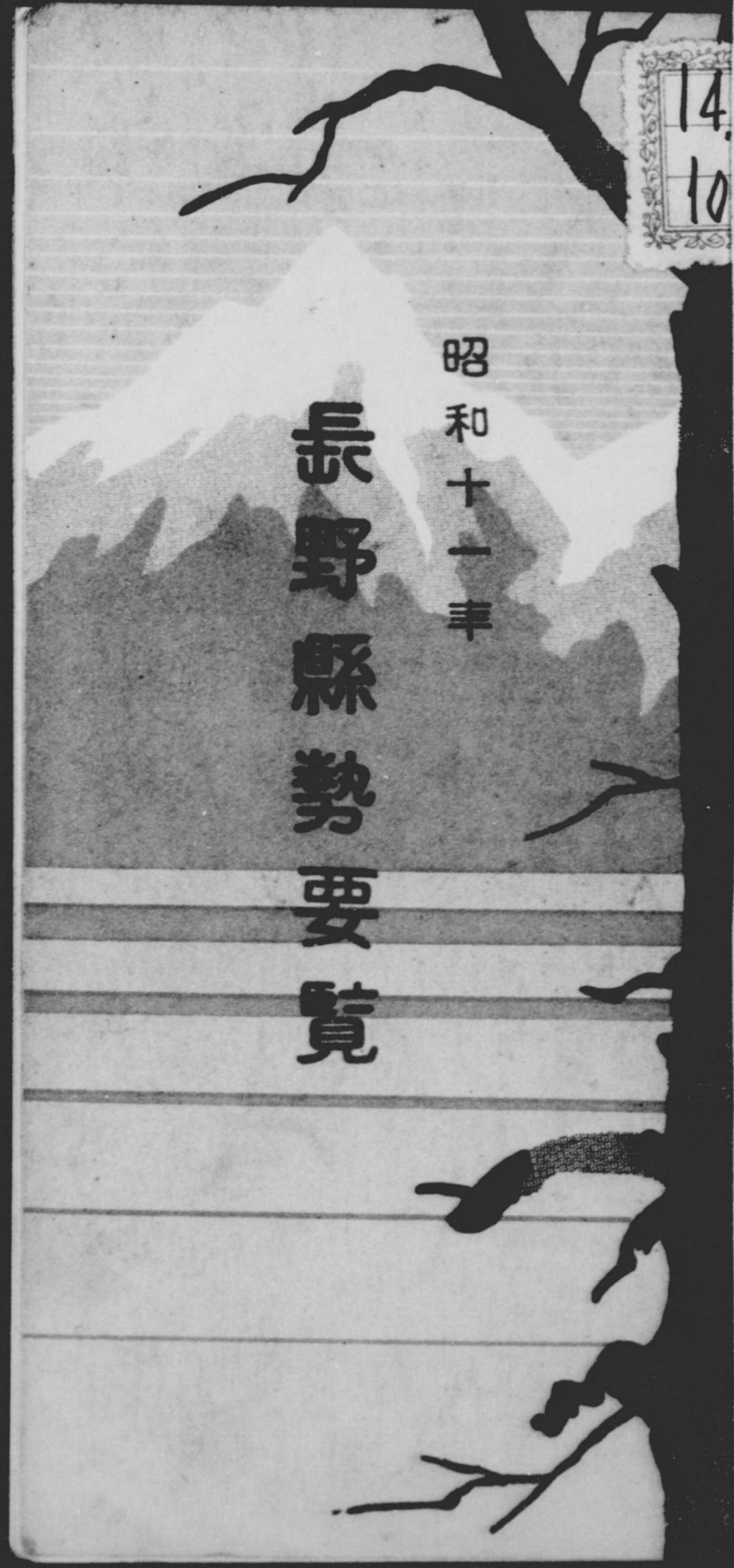
昭11至14

AFB

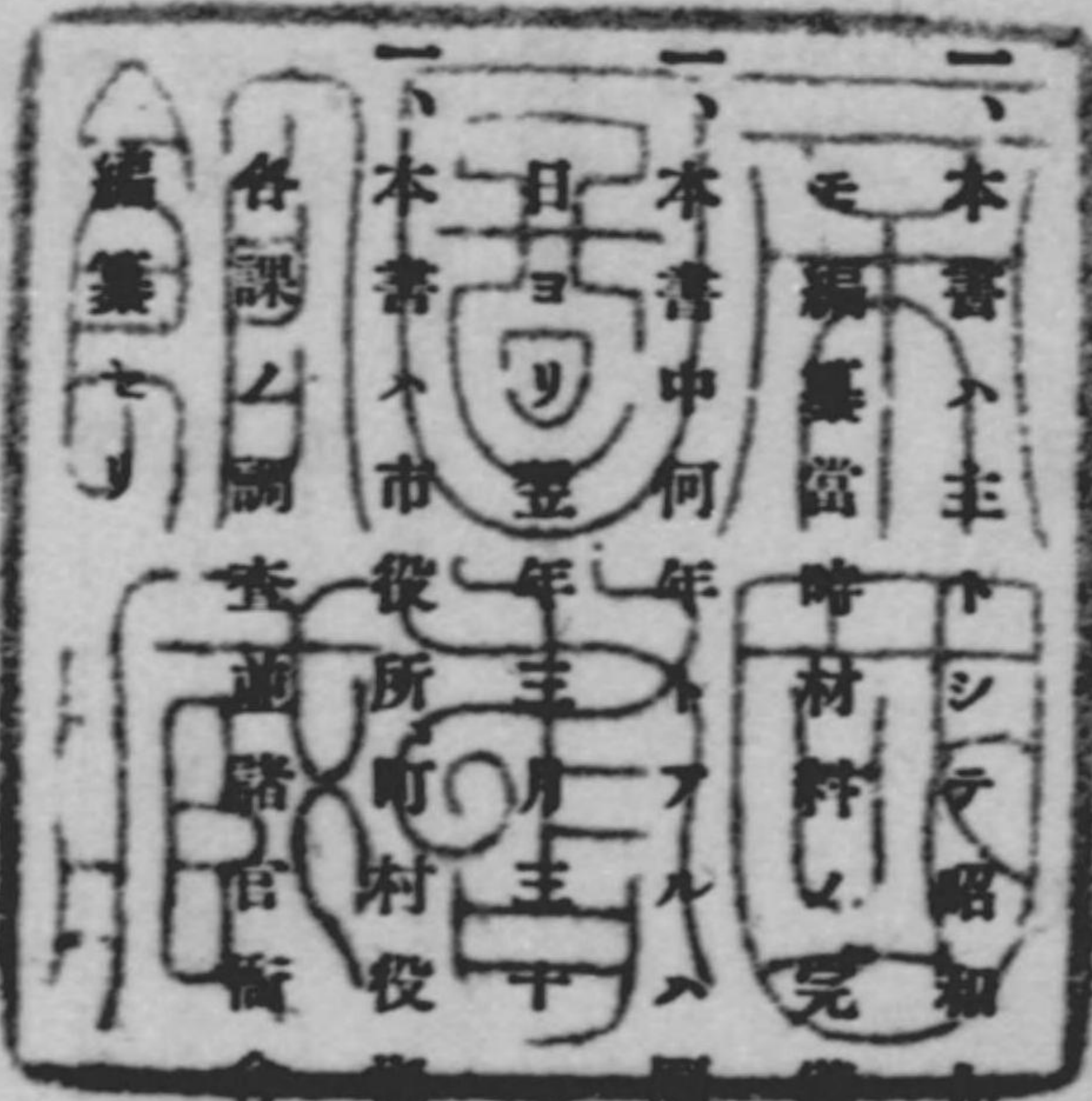
14  
10

昭和十一年

長野縣勢要覽



昭和十一年四月



例言

一、本書ハ主トシテ昭和九年及昭和十年度ノ事實ヲ表示シタリト雖  
 モ編纂當時材料ノ完備シタルモノハ努メテ最近ノ事實ヲ集録セリ  
 一、本書中何年トアルハ歷年同ノ事實、何年度トアルハ其ノ年四月一  
 日迄ノ事實ナリ  
 一、本書ハ市役所、町村役所ノ統計報告ニ依ル材料ヲ主トシ、是ニ應  
 各課ノ調査、通商、官商、會社等ニ依頼シテ蒐集シタル材料ヲ加ヘテ  
 編纂セリ

長野縣總務部統計課



14.4-1027

名所寫真	
一、總說	一頁
二、統計事項	六頁
一、面積及人口	六頁
二、土地	七頁
三、氣象	八頁
四、教育	八頁
五、生產總價額	一〇頁
六、農業	一〇頁
七、蠶絲業	一三頁
八、畜產業	一三頁
目次	
九、林業	一四頁
一〇、礦業	一五頁
一一、水產業	一六頁
一二、工業	一七頁
一三、主要物產移出入	一八頁
一四、商業及金融	一八頁
一五、電氣及瓦斯	二〇頁
一六、土木及交通	二〇頁
一七、社寺・兵事	二三頁
一八、警 察	二三頁
一九、衛 生	二五頁
二〇、社會事業	二六頁



圖書第十一卷四日

具代縣縣務報告



7201-44

三、附 錄

一、歷代知事	.....	一
二、歷代縣會議長	.....	二
三、貴族院多額納稅者議員	.....	四
四、衆議院議員	.....	五
五、縣會議員	.....	六
六、名所舊蹟遊覽地	.....	八
七、山 嶽	.....	四

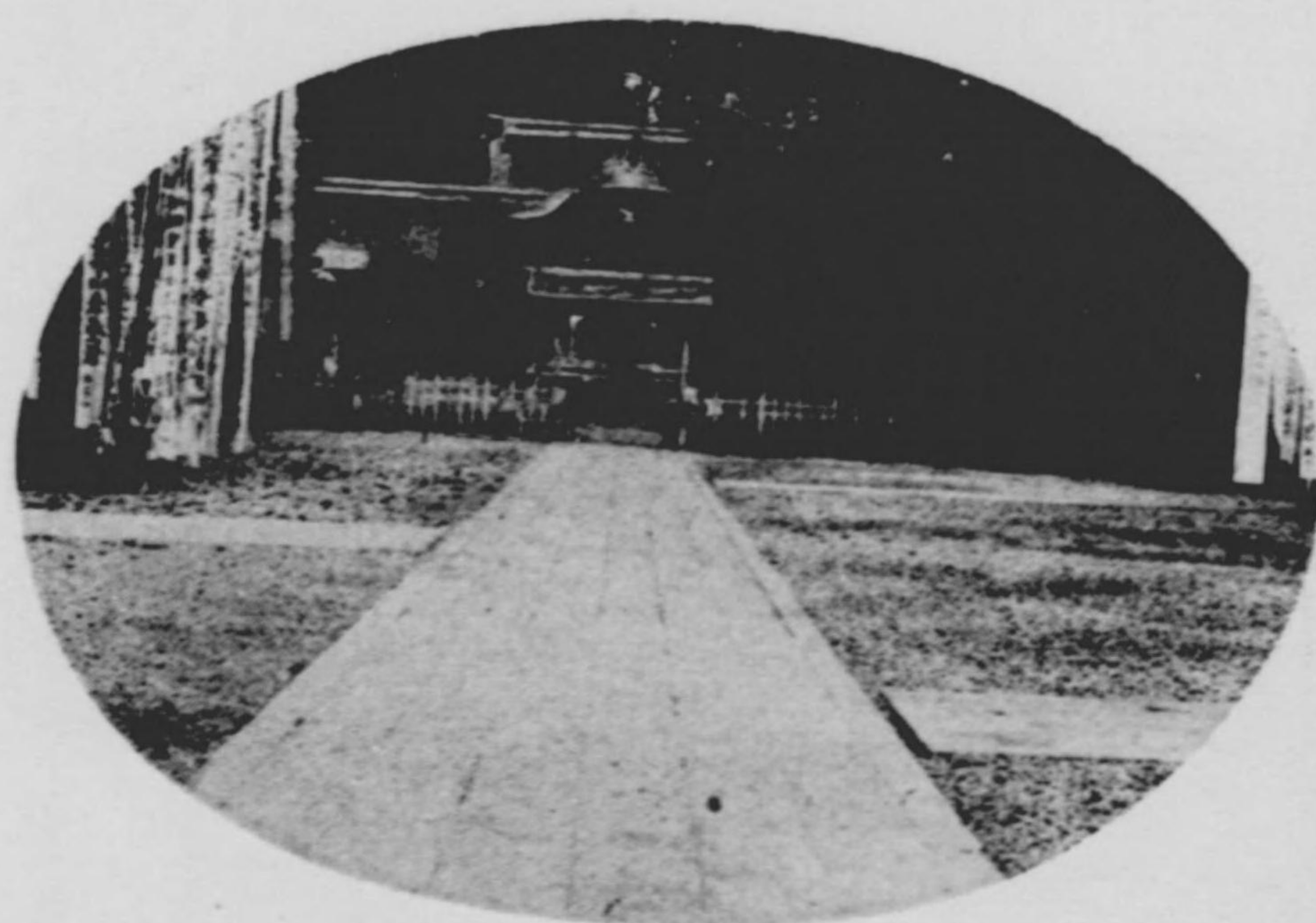
一八、瀑布	.....	五
一九、溫泉	.....	六
二〇、運動場	.....	七
二一、スキー・スケート場	.....	九
二二、信濃民話	.....	三
二三、地 圖	.....	〇
二四、商 業	.....	六
二五、工 業	.....	六
二六、水 道	.....	六
二七、林 業	.....	六

長野縣廳

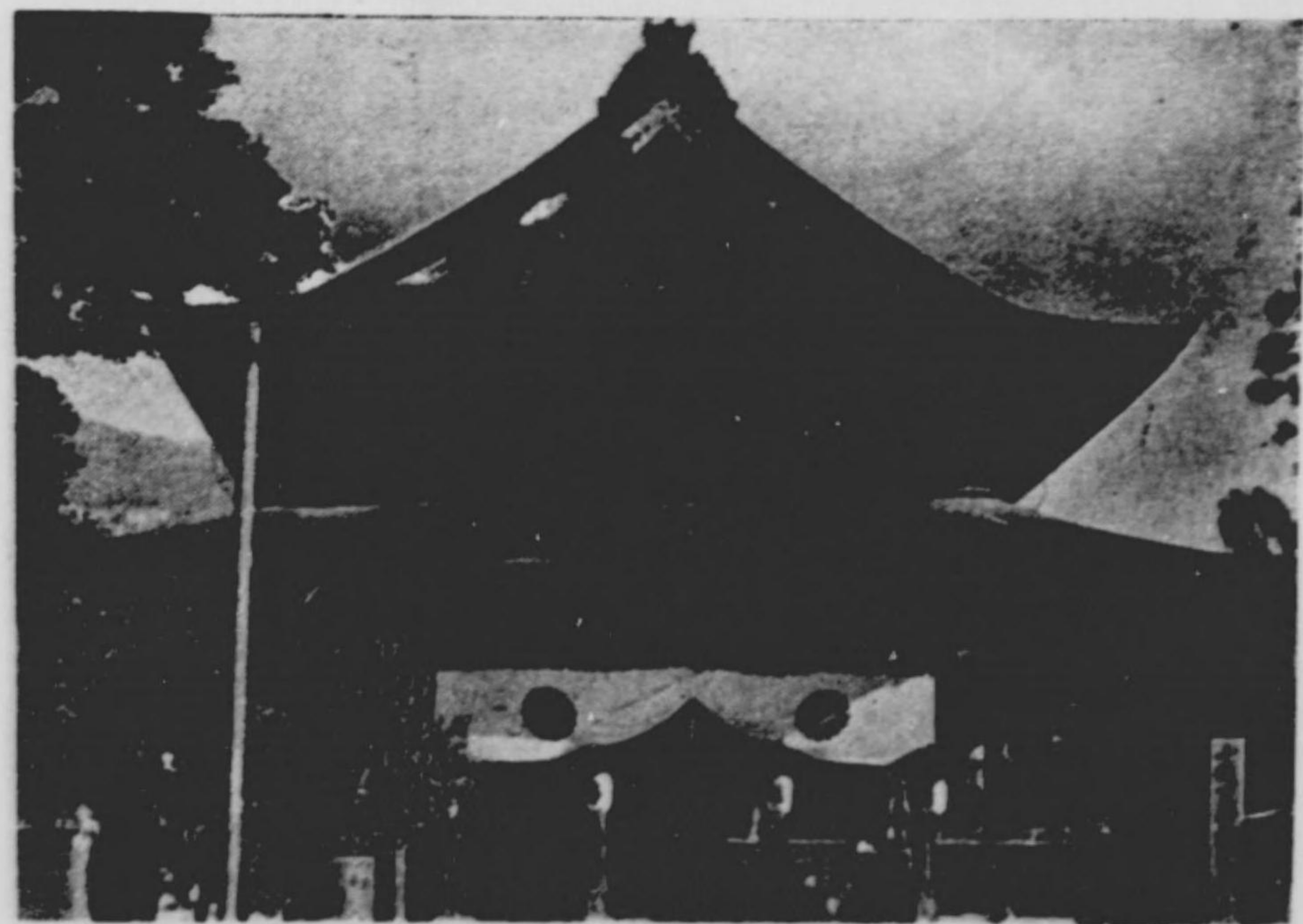




(村隠戸郡内水上) 社神隱戸社小幣國



(村洲中部訪諏) 社神訪諏社大幣官



(市野長) 寺光善



(村田鹽東郡縣小) 社神鳥足鳥生社中幣國

日本アルプス 槍ヶ岳



(南安曇郡安曇村)

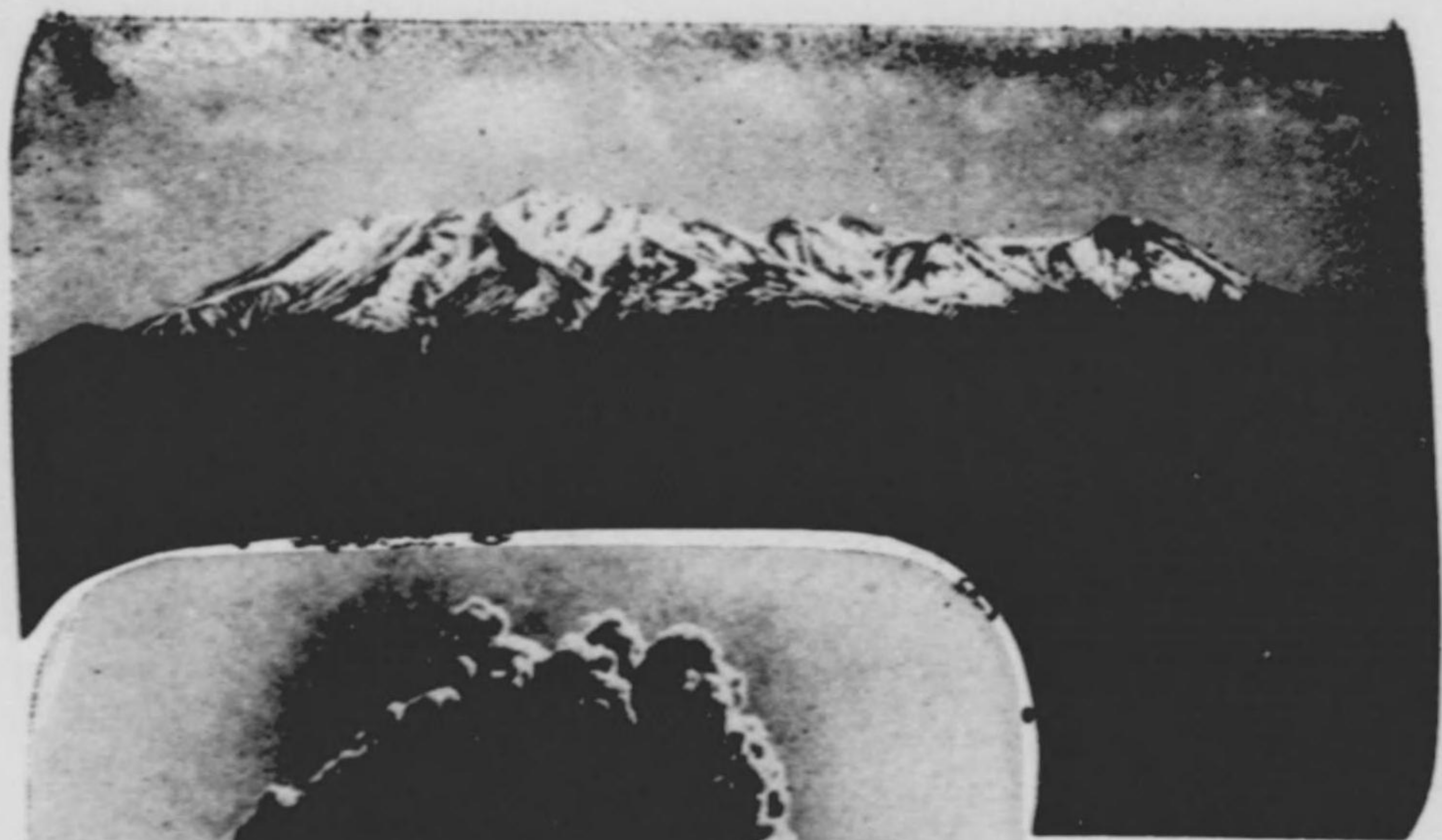
上高地 大正池



上高地 小梨平キャンプ村



御嶽



(西筑摩郡三岳、王滝、開田ノ三村)

浅間山



(北佐久郡軽井深町)



軽井深澤避暑地



(小縣郡別所村)



別所温泉

(上田市)



上田城跡

(小縣郡長村)



菅平スキ場

(南佐久郡北軽村)



松原湖

(諏訪郡上諏訪町)

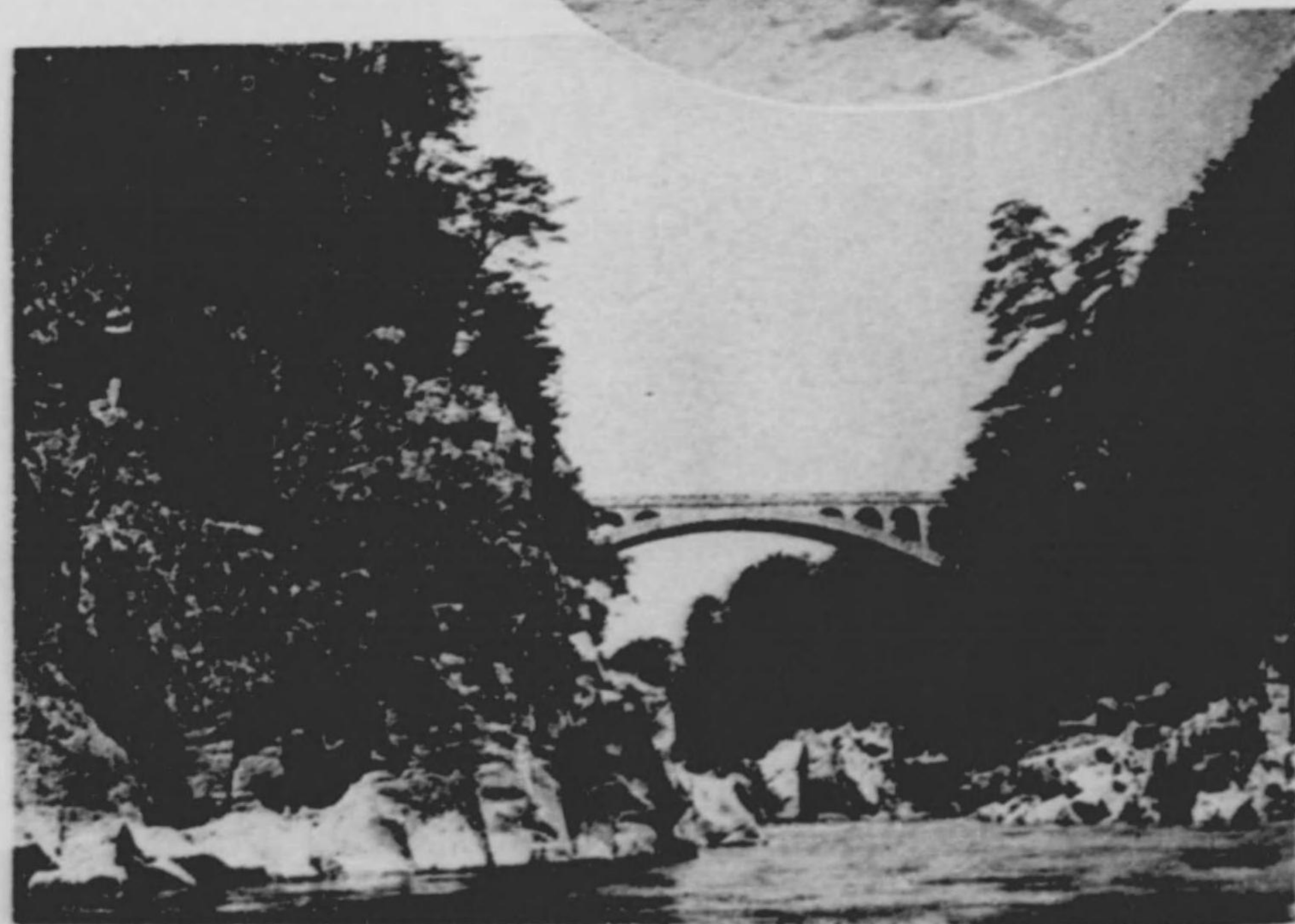


峰ヶ霧

橋



(下伊那郡龍川江路村)



天龍峽

(岡谷市)



絲の街



諏訪湖スケート



(西筑摩郡上松町)

床の覺寢



(東筑摩郡本郷村)

泉温間淺



(松本市)

城本松



(上伊那郡高遠町)

櫻の趾城遠高

(更級郡小島田村)



原 幡 八

(更級郡上山田村)



泉 温 倉 戸 田 山 上

(北安曇郡北城村)



岳 子 杓・鍵・馬 白

(更級郡八幡村)



山 捨 姥

(下高井郡豊地村)



野澤温泉

(上水内郡信濃古問村)

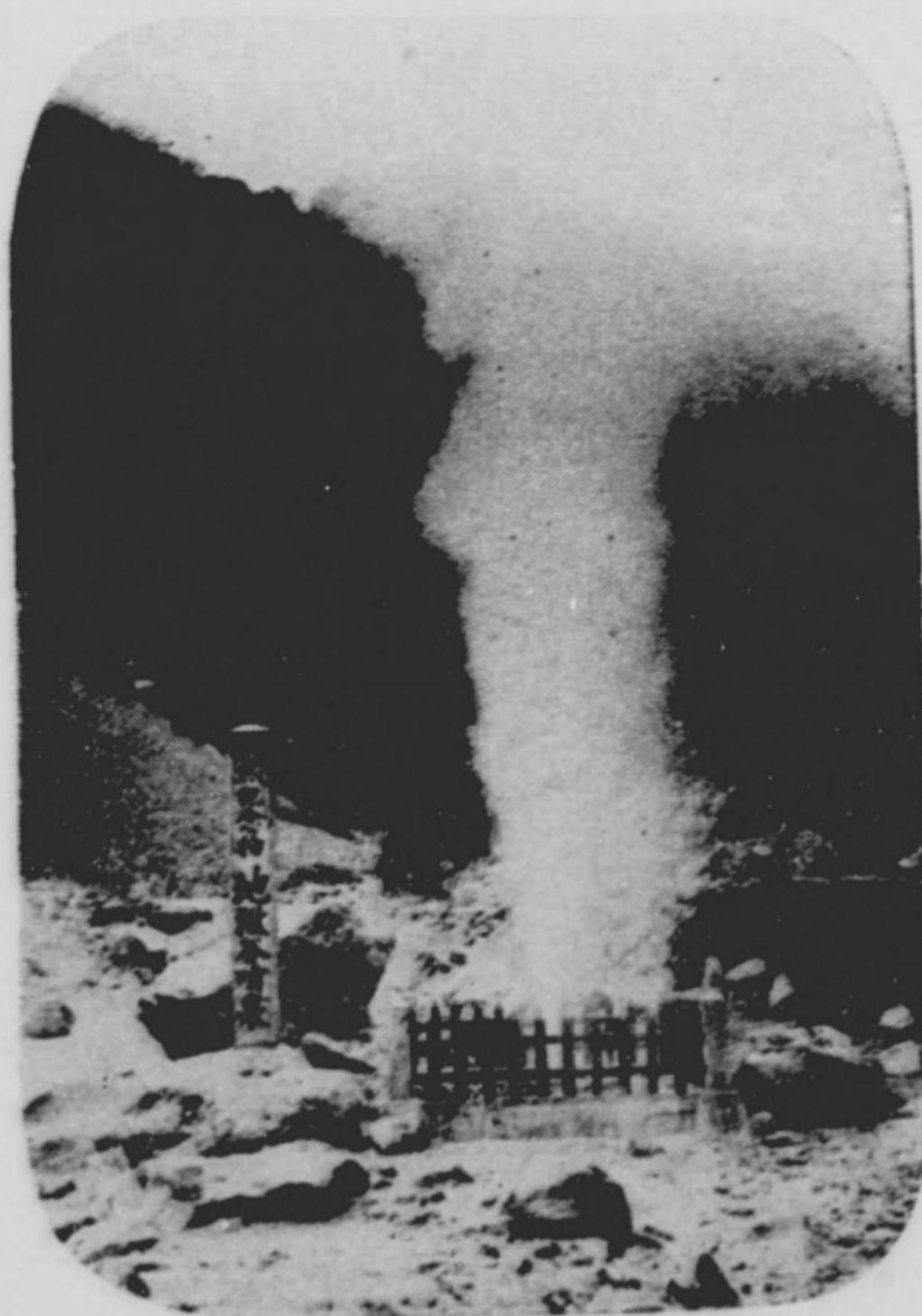


野尻湖



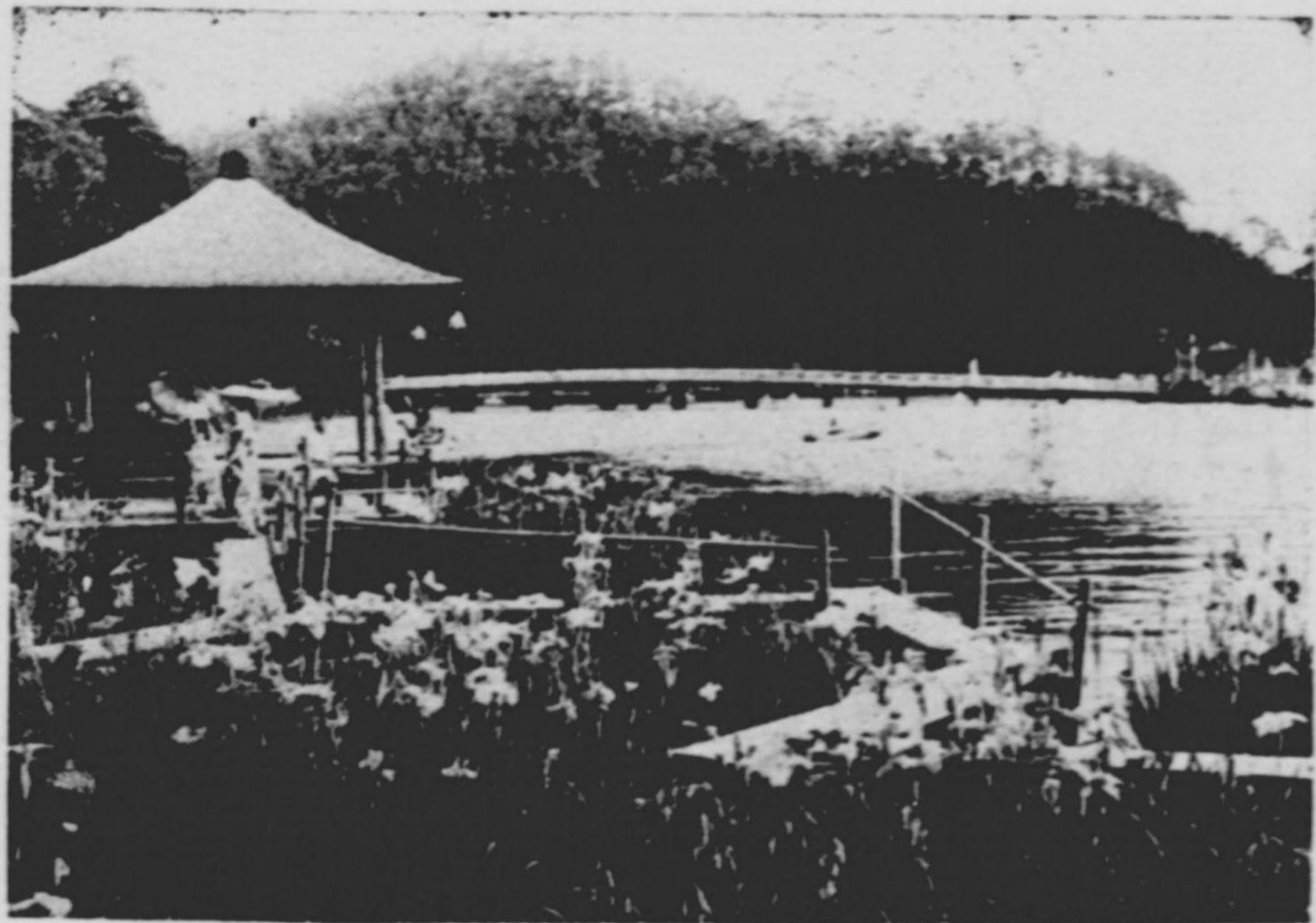
平穩温泉

(下高井郡平穩村)



地獄谷噴泉

(上高井郡須坂町)



龍ヶ池

(下水内郡飯山町)



飯山スキ場

# 總 說

## 一、沿革

信濃國には有史以前より人類の棲居したる遺跡多し。神代に於て健甕名方命此の國を開き人皇の世となりて、神八井耳命の子孫國造として始めて各地を治められ、王化漸く治かりしが如し。

奈良朝の始めに信濃の國司任せられてより、地方次第に開發せられ、平安朝に至り延喜、天曆の時、信濃の郡縣、宿驛、牧場、神社等世に知らる。當時の國府は松本附近に在りたり。平安朝の末、地方武士の自主獨立の形勢にありたる頃、所謂信濃源氏なる者各地に在り源義仲の蹶起に際して一時勢力を振ひしが鎌倉時代となり、守護職は甲州源氏小笠原氏の手に歸したり。

南北朝時代には於ては國內の志士、守良親王を奉じて二十餘年間北朝に對抗したる偉績あり、戰國時代には各地に小藩獨立し國争を事とし、武田氏信濃侵略を企圖せしより以來村上、小笠原、諏訪、木曾の諸豪聯合して之を争ふこと數十年に亘りしも、終に武田氏の所領となりたり。

武田氏亡び織田、豊田の二氏を経て徳川時代となるや、戰國時代以來の戰亂熄みて社會の秩序漸く定まり、松代、松本、上田、諏訪、高遠、小諸、飯田、飯山、須坂、岩村田等十藩分領し、其の間徳川代官の所領ありて領地頗る錯綜せり。斯くの如き小藩分立の治下に泰平を謳歌したるもの二百六十餘

年、然れども此の間幾多の傑才を輩出し、新田の開発増加し、徳川初代五十餘萬石なりしも幕末には七十餘萬石となり、人口も亦これに準ずるに至れり。王政復古せられ明治時代に至りて、此の地に伊那、中野の二縣設置せられ、縣藩共治たりしが、其後廢藩となり、次いで明治四年之を改めて筑摩、長野の二縣となせり。筑摩縣は信濃の南部四郡と飛騨とを管轄し、長野縣は信濃の北部六郡を管轄したり。

明治九年全國に於て、縣の廢置分合行はるゝや、筑摩縣を長野縣に合せて茲に信濃一國一縣治を形成せり。  
 明治元年以降の沿革を表出すれば左の如し

明治元年	同二年	同三年	同四年	自同五年至同八年	同九年以降
高島藩……諏訪氏(三萬石)……諏訪郡全郡及東筑摩郡ノ内	……	……	高島縣	……	……
松本藩……戸田氏(六萬石)……東筑摩、南北安曇、上伊那四郡ノ内	……	……	松本縣	……	……
飯田藩……堀氏(一萬七千石)……下伊那郡ノ内	……	……	飯田縣	……	……
			筑		

高遠藩……内藤氏(三萬三千石)……上伊那、東筑摩二郡ノ内	……	……	高遠縣	……	……
高須藩……松平氏(三萬石)……下伊那郡ノ内	……	……	高須縣	……	……
(美濃) 但シ全藩	……	……	高須縣	……	……
名古屋藩……徳川氏(一萬三千石)……西筑摩郡全部	……	……	名古屋縣	……	……
(尾張) 但シ全藩六十一萬九千五百石	……	……	名古屋縣	……	……
名古屋藩ノ取締所……上下伊那、東筑摩三郡ノ内	……	……	名古屋縣	……	……
伊那縣……南北佐久、小縣、更級、埴科、上下高井、上下水内九郡ノ内	……	……	伊那縣	……	……
松代藩預所……上下高井、上下水内四郡ノ内	……	……	伊那縣	……	……
水野春四郎采地……北佐久郡ノ内	……	……	伊那縣	……	……
内藤箭之亟采地……同	……	……	伊那縣	……	……
松平榮之助采地……北佐久、小縣二郡ノ内	……	……	伊那縣	……	……
仙石政雄采地……小縣郡ノ内	……	……	伊那縣	……	……
松平忠厚采地……更級郡ノ内	……	……	伊那縣	……	……
			伊那縣		
			中野縣		
			長野縣		
			長野縣		
			長野縣		











天柞夏春 秋 重露露露	飼養戶數 一三三、三七五 一四七、一八二 一〇八(飼育林反別)	掃立數量 七、一二二、七四四瓦 一〇、八九〇、四五三 六〇六町七反	收滿高 三、九一三、〇六二瓦 四、九五二、四三九 九、六一五千粒	價額 一三、六三三、三二四 二二、九五六、五二八 三四、四四八	議爭作小 (年九)	件數	地	關	主	係	人	小	作	人	田	關	係	地	計
					二二〇	二、八一九	九、四三八	三、六〇〇、七	一、一四四、〇	四、七四四、七	二、八一九	二、八一九	二、八一九	二、八一九	二、八一九	二、八一九	二、八一九	二、八一九	二、八一九

七、蠶絲業

昭和十年

製絲	桑園	桑苗	製遺戶數 一、一七二	普通製造	原蠶	計數	普通	同上	原蠶	價額	計數	製絲	器機	座機	玉座	生	場	數	使用	釜	工	男	女	生絲	生產	高
												其他設別	根	刈	中	刈	高	刈	立	通	計	價	價	價	價	價

八、畜産業

昭和十年

豚馬牛	飼養戶數	年末現	生	死	屠	殺	價額	飼養	在	頭	生	死	屠	殺	價額	飼養	在	頭	生	死	屠	殺	價額	飼養	在	頭	生	死	屠	殺	價額









貯金者	貯金者	貯金者	貯金者
貯蓄銀行貯金	貯蓄銀行貯金	貯蓄銀行貯金	貯蓄銀行貯金
貸出金額	貸出金額	貸出金額	貸出金額
受戻金額	受戻金額	受戻金額	受戻金額
流金高	流金高	流金高	流金高
無業	無業	無業	無業
社數	社數	社數	社數
資本金	資本金	資本金	資本金
口數	口數	口數	口數
給付金	給付金	給付金	給付金
契約高	契約高	契約高	契約高
貯金高一人當	貯金高一人當	貯金高一人當	貯金高一人當
現在人口	現在人口	現在人口	現在人口

一五、電氣及瓦斯

(昭和九年)

電氣事業	電氣事業	電氣事業	電氣事業
事業者數	事業者數	事業者數	事業者數
發電所數	發電所數	發電所數	發電所數
發電出力(最大)水力	發電出力(最大)水力	發電出力(最大)水力	發電出力(最大)水力
他ヨリ受クル力	他ヨリ受クル力	他ヨリ受クル力	他ヨリ受クル力
他へ供給スル力	他へ供給スル力	他へ供給スル力	他へ供給スル力
電線路巨長	電線路巨長	電線路巨長	電線路巨長
電線路延長	電線路延長	電線路延長	電線路延長
支持物	支持物	支持物	支持物
供給市町村數	供給市町村數	供給市町村數	供給市町村數
電燈供給戶數	電燈供給戶數	電燈供給戶數	電燈供給戶數
電燈筒數(十燭換算)	電燈筒數(十燭換算)	電燈筒數(十燭換算)	電燈筒數(十燭換算)
同換算電力	同換算電力	同換算電力	同換算電力
取電動機數	取電動機數	取電動機數	取電動機數
同馬力數	同馬力數	同馬力數	同馬力數
事業者數	事業者數	事業者數	事業者數
管延長	管延長	管延長	管延長
需要家數	需要家數	需要家數	需要家數
需要孔口數	需要孔口數	需要孔口數	需要孔口數
產出瓦斯	產出瓦斯	產出瓦斯	產出瓦斯
石炭消費量	石炭消費量	石炭消費量	石炭消費量

一六、土木及交通

土木費(八年度)	土木費(八年度)	土木費(八年度)	土木費(八年度)
道路延長(九年末)	道路延長(九年末)	道路延長(九年末)	道路延長(九年末)
鐵道	鐵道	鐵道	鐵道
郵便局(十年)	郵便局(十年)	郵便局(十年)	郵便局(十年)
電信及郵便物(九年)	電信及郵便物(九年)	電信及郵便物(九年)	電信及郵便物(九年)
縣費	縣費	縣費	縣費
市費	市費	市費	市費
町費	町費	町費	町費
村費	村費	村費	村費
水利組合費	水利組合費	水利組合費	水利組合費
計	計	計	計
國道	國道	國道	國道
縣道	縣道	縣道	縣道
市道	市道	市道	市道
町道	町道	町道	町道
村道	村道	村道	村道
停車場及停留所	停車場及停留所	停車場及停留所	停車場及停留所
延長距離	延長距離	延長距離	延長距離
乘員	乘員	乘員	乘員
客貨	客貨	客貨	客貨
金貨	金貨	金貨	金貨
貨物	貨物	貨物	貨物
一等局	一等局	一等局	一等局
二等局	二等局	二等局	二等局
三等局	三等局	三等局	三等局
集配	集配	集配	集配
無集配	無集配	無集配	無集配
電報局	電報局	電報局	電報局
電話交換及電話局所	電話交換及電話局所	電話交換及電話局所	電話交換及電話局所
切手印紙賣捌所	切手印紙賣捌所	切手印紙賣捌所	切手印紙賣捌所
郵便函數	郵便函數	郵便函數	郵便函數
引受現在人口一人當引受	引受現在人口一人當引受	引受現在人口一人當引受	引受現在人口一人當引受
配達	配達	配達	配達
引受現在人口一人當引受	引受現在人口一人當引受	引受現在人口一人當引受	引受現在人口一人當引受
配達	配達	配達	配達
小包郵便物	小包郵便物	小包郵便物	小包郵便物
引受現在人口一人當引受	引受現在人口一人當引受	引受現在人口一人當引受	引受現在人口一人當引受
配達	配達	配達	配達

電話 (九年)	單獨共 一七、三七五	加入者	人口萬ニ付加入者 一〇五
ラゲオ聴取者 (十一年三月)	長野市 四、七九 松本市 二、三六四 上田市 一、三三五	施設者數 世帯千ニ對スル施設割合	施設者數 世帯千ニ對スル施設割合 一九、四五三
儲車小船 (十年)	自動車及自動自轉車 二、四三〇	荷積牛馬車 七、一六八	自轉車 一八七、八二二

一七、社寺、兵事 昭和十年

壯丁体格 檢査人員	甲種 一五、三三六	乙種 四、六六三	丙種 五、三三七	丁種 四、三二六	不 種一戊 一、〇三九	合格歩合% 九三
壯丁教育 程度	大學卒 一八九	高專卒 二八七	中學卒 二、一〇一	高小卒及 同 九、三七	尋小卒 三、一八四	尋中退 二〇三
壯丁ト ホム及 花柳病	檢査人員 一七、〇〇九	トラホム患者檢 査人員千人ニ付 三、一八	花柳 九	軟性下疳 一四	淋病 二八	疾患者 計 五二

海軍志願 兵令ニヨ ル志願兵	探 用 格 不 探 用	官國幣社 縣社 郷社 村社 無格社	神 職社	曹洞宗一眞言宗一眞宗一天臺宗一臨濟宗 日蓮宗一黃蘗宗一時宗一淨土宗一其他	住寺 職院	神 道佛 教 基督教	教會	國寶 刀劍影刻繪畫 典籍美術工藝 一文書	寶 物	建造物 神社 寺院 佛堂
一、四二二	一六三	一〇一	一〇三 六九	一、五八三 二一〇	一、六二〇 一四	一、五二六 一、三九九	七、四八六	二八	八〇	一九

一八、藝 寮



種痘 (私種痘ヲ除ク)	善感一不善感一	檢診未了一期	善感一不善感一	檢診未了二期
	二一回	四、一七七 一、六四〇	一、二九五 三、五三三	二、九〇二 三、三三三
埋火葬	墳墓地個所	同上	火葬場數	火葬人員
	六二、八三四	同上	八九七	六、一〇一

二〇、社會事業

昭和九年

軍事救護	救護人員	生活扶助	醫	療	其他	計
	一、二九三	三、四六八	六四四	七三	三三、一八五	
救助	行旅病人及死亡人	救護法ニ依ル救護	濟生會	恩賜記念救療事業	救療人員	金額
	人員	救護金額	人員	支出金額	金額	額
財團法人大 勸進養育院 (十年度末在)	人員	資產	職	經費支出	收容定員	
	三六	四、七九八	九	一六、九二七	七〇	

赤十字社	總數	佩有功章	特別計員	終身正社員	正社員	終身贊助社員	再度贈金出金者
	一〇一、三八	六三	二、四六二	四八、六五六	五〇、一〇四	三四	九七
愛國婦人會支部	總數	特別維持會員	特別終身會員	特別年賦會員	通常終身會員	通常年賦會員	
	五〇、二六六	二〇〇	三、三三三	一、八二八	三三、二四九	三三、八五七	
方面委員	農業	商業	工業	官公吏會計員	教員	醫師	神官僧侶
	二〇二	三五	二三	三九	二	三九	一三六

二一、財政

縣費	出入	昭和十一年度豫算	昭和十年度豫算	昭和九年度豫算	昭和八年度決算	昭和七年度決算
	一一、七〇三、五三五	一一、三三六、二三八	(決算) 二、三、九九一、五六一	二、二、七八、七五七	二、一、四〇四、六七五	一、八、三三二、〇六六
市費	長野	一、一五八、六五七	九四三、六八三	一、〇一一、九九九	一、一、八五五、九九五	一、〇八五、七三七
	松本	一、〇一五、〇一八	一、二七八、〇七二	一、〇八五、九六〇	一、一、三九四、九一三	一、〇六一、七三三
町村費	上田	四四一、六二九	四四一、〇六〇	四三四、四四八	七〇〇、三三三	五九八、五六三
	一八、〇四九、四一六	一七、〇四〇、〇五二	一七、七五四、二七〇	三三、七〇三、三八四	三三、三三三、三三三	三三、〇七三、八八六

同頁擔	諸稅	公有債		市町村基本財產		縣有財產	
		三月末	十月末	三月末	十月末	三月末	十月末
市町村稅一戶平均	直轄國稅 市縣町村計稅稅稅	縣	市	町	村	水利組合	計
稅總額負擔一戶	市町村稅一戶平均	二六、三九、五四	三、三九、六六	一三、七八、一七	二四、三三、七	三、一〇、四〇	三、一〇、四〇
市町村稅一戶平均	市町村稅一戶平均	二六、三九、五四	三、三九、六六	一三、七八、一七	二四、三三、七	三、一〇、四〇	三、一〇、四〇
市町村稅一戶平均	市町村稅一戶平均	二六、三九、五四	三、三九、六六	一三、七八、一七	二四、三三、七	三、一〇、四〇	三、一〇、四〇

國稅	地租		所得稅		營業收益稅		相續稅		礦業稅	
	酒稅	酒稅	織物消費稅	清涼飲料稅	資本利子稅	計	計	計	計	
昭和九年實收	一、三三〇、三九九	一、〇八七、九五五	四、六五六、一五五	八九、八二三	一五、〇九〇	九五、九五六	八、〇二、九七一	二七五、三九九	二七五、三九九	二七五、三九九

二二、議

員

昭和十年末

選舉有權者	議(定員)員	貴族院		衆議院		縣會		市會		町會		村會	
		1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100	1100

二三、官

吏

昭和十年末

俸給年額	人員	縣官・吏		待遇職員		巡查		縣吏員		有給市吏員		有給町村吏員	
		二九六、八八〇	二八七	六五七、六七六	七〇九	六五、三八〇	一、〇一七	一四七、八二八	二四六	一九五、六二六	二四五	二二、三〇〇	八八七、八〇六

二四、文

書

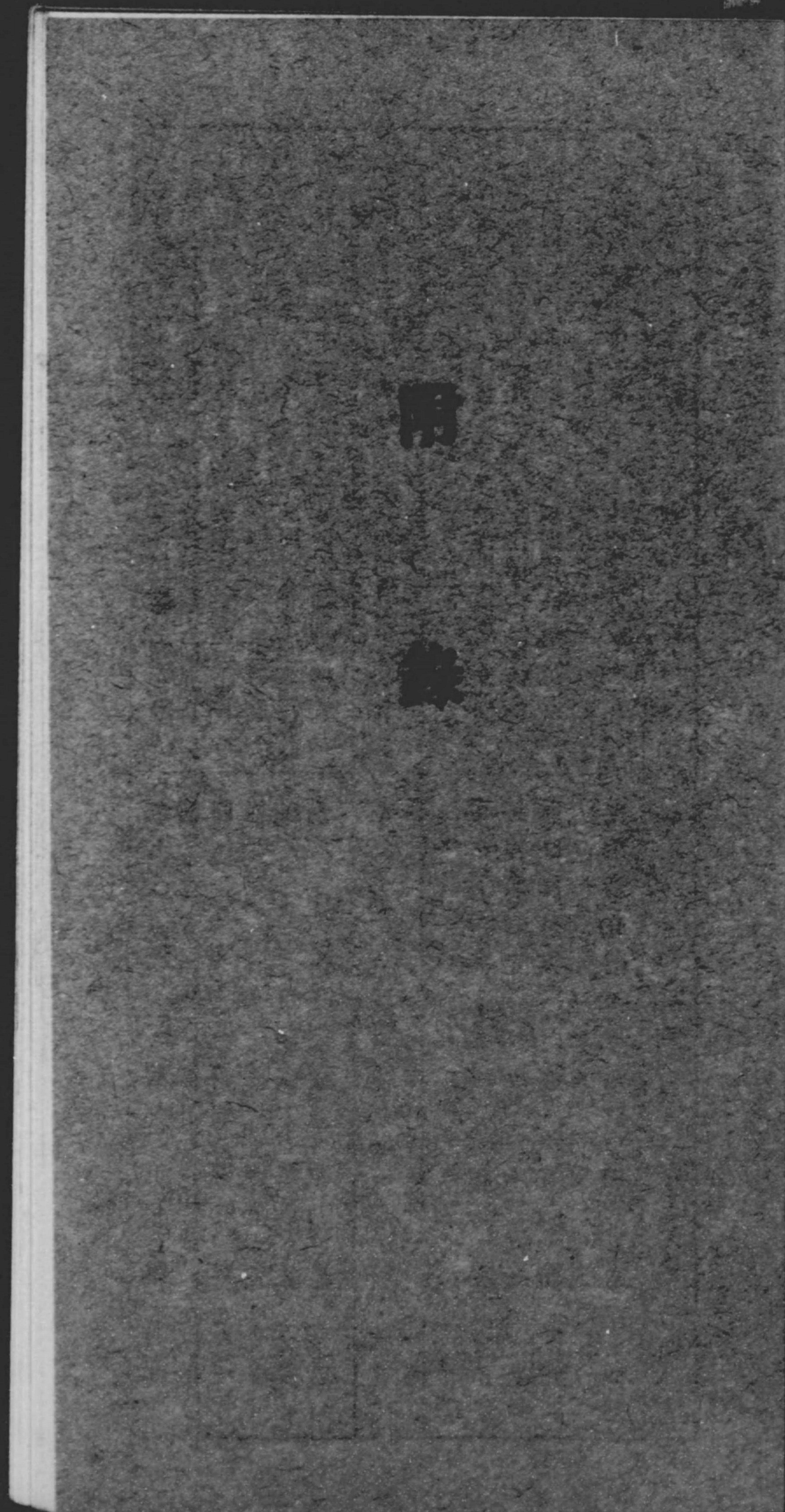
昭和十年

知事官房	總務部	土木部	學務部	經濟部	警察部	計
收 受	一、六七三	一三八、八〇七	五三、七六四	一四八、二九三	一三六、七〇六	八三四、九〇三
發 送	二、〇三八	一四八、二四五	三二、七六一	二七二、四六一	二六、〇三七	五三五、二二五
						一、三二四、一六五
						一、二二五、七五七

二五、統計調査員

昭和十一年四月

總計	市平均	町村平均	一人當リ世帯數	一人當リ耕地反別
總計	六、二五	一四八	四	二九・〇
市	五、八三七	一四八	四	二八・二
町	二九	一四八	四	二九・〇
村	二九	一四八	四	二八・二



一、歴代知事

在職年月	官名	氏名
自明治四年十一月 至明治八年十一月 <small>(明治六年三月權令となる)</small>	筑摩縣參事	永山盛輝
自明治八年十一月 至明治九年八月	筑摩縣參事	高井惟盛
自明治四年十一月 至明治六年六月	長野縣權令	立木寬
自明治六年六月 至明治十四年七月 <small>(明治八年七月權令となる)</small>	參事	楢崎寬直
自明治十四年七月 至明治十七年十月	令	大木梨一郎
自明治十七年十月 至明治廿二年十二月 <small>(明治十九年七月知事と改む)</small>	令	内木梨一郎
自明治廿二年十二月 至明治廿四年四月	知事	内野忠勝
自明治廿四年四月 至明治廿九年二月	同	淺田德一
自明治廿九年二月 至明治三十年四月	同	高崎親章
自明治三十年四月 至明治三十一年七月	同	高藤貫一
自明治三十一年七月 至明治三十二年八月	同	川山則吉
自明治三十二年八月 至明治三十五年二月	同	押園則吉







五、縣會議員

(昭和十一年五月現在)

六

住	所	氏	名
同下	伊那郡	吉羽	夫七
同同	伊那郡	大廣	茂
同上	伊那郡	北瀨	雄平
同同	諏訪郡	黒林	一郎
同同	諏訪郡	宮平	雄勇
同同	川玉郡	澤島	久松
同同	西瀬郡	下澤	吉周
同同	浦里郡	浦井	介助
同同	三岩郡	山長	治衛
同同	小畑郡	塩佐	輔
同南	野澤郡	並	

同同	水内郡	高坂	休
同上	高井郡	長田	一元
同上	高井郡	小田	保三
同上	高井郡	青木	萬賢
同上	高井郡	本藤	萬甚
同上	高井郡	土屋	竹
同上	高井郡	北村	竹
同上	高井郡	柳澤	竹
同上	高井郡	遠山	竹
同上	高井郡	內村	竹
同上	高井郡	三合	竹
同上	高井郡	和合	竹
同上	高井郡	小澤	竹
同上	高井郡	降旗	竹
同上	高井郡	熊谷	竹
同上	高井郡	小野	竹
同上	高井郡	片山	竹
同上	高井郡	市山	竹
同上	高井郡	遠山	竹



北佐久郡					南佐久郡
關	輕	淺	布	懷	松
伽	井	間	引	古	原
流	澤	山	觀	園	湖
山			音		
山高からすと雖も、壁丹崖峰立して花樹茂る山腹に松同一徑を通じて、 觀音堂あり、天正三年慈覺大師の開基と云ひ傳ふ、寺域奇岩多く春花 秋楓遊覽に適す。(岩村田町の東方一里半)	唯水峠の西麓に位し海拔三千八百尺、土地高燥にして空氣清爽なるの みならず、四顧の景緻雄偉大にして野趣横溢、避暑地として海内無雙と 稱せらる。別荘の設くる者愈多く内外人の夏季避暑する者比年其の數 を増しつあり。(町内輕井澤香掛の兩停車場あり)	信濃、上野の境に跨る活火山なり。海拔二、五四二米頂上の噴火口は周 圍二十餘丁今尙常に流煙を噴出す。驛路二あり一は香掛驛より一は小 諸町より何れも絶頂まで三里餘頂上に旅館の設備あり、夏時登山者頗 る多し。	布引山釋尊寺境内に在り、同山悉く波紋狀の奇巖を以て成り嵯峨とし て千曲河岸に峙つ仙境なり。神龜元年僧行基開創(小諸驛より一里 餘)	小諸城趾にして、東北に淺間の噴煙を仰ぎ、西南に千曲の清流を望む 小諸町唯一の遊園地なり。武田晴信の墓を仰ぎし所にして一名乙女ヶ城と 稱す。	湖形彎曲して大湖、尾長の兩湖に分る。總稱して松原湖と言ふ。西方に 八ヶ岳の奇峰聳え湖邊の風光明媚なり、湖畔に野邊山ヶ原の高原廣く 展け近年避暑地キヤンピオンヶ地として天下に稱せらる。夏季は舟遊 快遊遊覽船等の設けあり。又冬季は全面結氷し尺餘に及びスケートの 技藝にして内外人の來遊頗る多くスケート競技場として全國屈指の場 所なり。(周圍三十丁海拔四、三〇三尺松原湖驛より四丁)
三井村	輕井澤町	輕井澤町	川邊村	小諸町	北牧村

小縣郡			
國	生	北	溫
(分)	島	向	泉
(八日堂)	足	堂	
寺	島		
	神		
	社		
天平九年聖武天皇建立の舊蹟にして境内に三間三重銅版葺の古塔婆あ り、明治九年保存費金を下附せられ同四十年特別保護建造物に編入せ らる。境内の薬師を八日堂と稱し、年々一月八日が大縁日となし上田 市と共に八日堂市又は給市と稱し雜閑す。(上田の東方二十丁)	上田市の西南二里弱にあり國幣中社にして祭神は生國魂神足國魂神の 二柱なり、寶庫に天平年中の祭器其他武將等の古文書多數を藏せり。 社殿壯麗境内幽靜なり例祭九月十九日。(電車下之郷下車一丁)	別所觀音と稱す。堂は愛宕山を負つて北に向ひ間口五間奥行七間二重 の柿葺にして千手千眼觀世音を安置す。明治二十一年保存金百圓を下 附せられ境内の薬師堂護摩堂杉の老樹、女太杉等名あり。	別所溫泉 硫黄泉にして旅舎數多し、冬季浴客雜閑す。(上田驛より 三里電車の便あり) 田澤溫泉 (上田驛より西南三里半電車自動車の便あり、松本に通する 縣道に沿ふ) 香掛溫泉 (上田驛より四里弱電車自動車の便あり) 田澤溫泉より半里 土掛溫泉 (丸字驛より二里) 塩類泉、三方山を繞らし東北の一方を 靈泉寺溫泉 (丸字驛より二里三十丁) 上田松本より各約五里靈泉寺温 泉開いて眺望佳なり。 鹿教湯溫泉 (丸字驛より二里三十丁) 上田松本より各約五里靈泉寺温 泉を去る一里塩類泉にして三方山を繞らし鹿教湯川北流せる幽邃の 地なり。(丸字より自動車の便あり)
神川村	東塩田村	別所村	別所村 青木村 西内村

諏訪郡		菅平スキー場
諏訪湖	諏訪神社	菅平スキー場
<p>●雅名を鷺湖と稱す。周囲四里二十二丁本縣に有する第一の湖とす。山容湖光四時佳ならずなしと雖も就中夏季の舟遊最も快適にして遊覽船短艇の設けあり、又嚴冬湖の全面結氷し其の厚さ尺餘に及び人車馬其上を往來するを得。</p> <p>●スケート 近年スケートの技盛にして一月より二月の頃に涉り良く結氷し氷質良好なると近く温泉を降ゆるとにより内外人の來遊する者頗る多くスケートフアンの樂天地として天下一の稱あり。</p> <p>●高島公園 高島城跡にして涅槃共に存す園内花木多く四時風光を稱すへし。西に諏訪湖を瞰下し東遙に富士を囑望し上諏訪町唯一の遊園地とす。</p> <p>●花岡城趾 湖の西岸に兀然と立つ小邱にして、花岡氏の居城今痕趾</p>	<p>官幣大社にして信州一の宮と稱へ上下兩社に分れ上社は中洲村神宮寺に鎮座建御名方富命を祀り、下社は下諏訪町に鎮座建御名方富命並八坂刀賣命を祀り社殿宏壯森嚴を極む。七年一回の御柱祭及下社御舟祭は全國稀有の特殊祭典にして盛名遠く聞ゆ。</p>	<p>上田市より二時間(電車自動車馬糞使用)にて達す、雪の超人ハンネスシユナイダー氏の命名せる日本シユワルツワルドとまで稱讚したる五千尺高原の大スキー場なり。十二月末より四月始めに至るスキー練習地として亦競技場として全國一の稱あり。之に加ふるに夏季のスイズラ、キヤン、プ生活の好適地日本アルプスを一時におさむる眺望雄大、菅平ホテル、縣立青年講習所あり。</p>
上諏訪町	上中洲村	長村

諏訪郡		富士見高原	温泉	霧ヶ峰
富士見高原	温泉	霧ヶ峰	霧ヶ峰	霧ヶ峰
<p>を止めすと雖も左崖天龍の清流を望み東湖を隔て八ヶ岳連峰と對し望湖の勝湖畔第一の稱あり。(岡谷驛より五丁)</p> <p>●小坂觀音 湖の西南岸に在り老樹鬱々として小岳湖に望み樹間より朝曇夕靄の湖色を展望する景観言ふべからず山腹に觀音堂あり。</p> <p>海拔三千百三十五尺、富士天龍二川の分水嶺にして山梨縣界に接す曠漠たる八ヶ岳の裾野の景緻輕井澤に酷似し避暑地として漸く別荘を構ふる者多きを加へつ、あり、原宿松林を隔て富士山の眺望あり。</p>	<p>上諏訪町の温泉 單純泉なるも到る處湧出し、其の量の豊富なる旅舎料理店に内湯の無きものなく、町の北部に到るときは毎戸殆ど此の設備あり。</p> <p>下諏訪町の温泉 泉質單純泉なるも到る處湧出し浴客常に雜踏せり。</p>	<p>上諏訪町の東北方約二里半自動車の便あり。カボツチヨ、東山、八子峰等二十五平方里に亘る廣漠たるスロープを有す、遠く富士、アルプス、淺間の連峰を一時におさめ眺望雄大、十二月より四月上旬迄粉雪五尺以上に達しスキーの好適地として全國に其名を走せ、來場するもの年と共に増加す、町營小屋、山小屋賣店等あり、霧ヶ峰ヒュッテは百人を收容し得。南西三軒の地点に藁の海スケート場あり。</p>	<p>上諏訪町</p>	<p>上諏訪町</p>
淡村	富士見村	上諏訪町	下諏訪町	上諏訪町

下伊那郡				上伊那郡
尹良親王御墓	宗良親王の遺跡	座光寺 (本善光寺)	天龍峽	高遠公園
飯田町の東南十一里道嶮に深き赤石岳の麓大鹿村大河原字上藏にあり、親王は御醍醐帝第三皇子にして征東將軍に補せられ興國中信濃軍と戦ひ、四方に起り波合川邊に赴かれんと此地を過ぎ給ひし時駒場伊那の原と稱し、親王の遺骸は其の原を距る四丁の小丘丸山に飲め御靈を祀る。明治十七年宮内省の直轄となれり。	飯田町の東南十一里道嶮に深き赤石岳の麓大鹿村大河原字上藏にあり、親王は御醍醐帝第三皇子にして征東將軍に補せられ興國中信濃軍と戦ひ、四方に起り波合川邊に赴かれんと此地を過ぎ給ひし時駒場伊那の原と稱し、親王の遺骸は其の原を距る四丁の小丘丸山に飲め御靈を祀る。明治十七年宮内省の直轄となれり。	推古帝の御宇此地の住人若麻績東人なる者難波の堀江より迎へ來りし里人本善光寺と稱し、賽者頗る多し。遷座する前此地に安置せし舊跡なり。	川路村邊より天龍川の兩岸相通りて花崗岩の懸崖峭壁左右に隆起突出の趣、悉く揃すべし、殊に姑射橋附近十餘丁の間風景最も奇にして耶馬溪の上にありと稱せらる。(天龍峽下車)	高遠公園は高遠城跡なり、天正十年仁科五郎信盛の樓みし所にして織田信忠の六万の大軍と裏兵血戰遂に陥落せりと雖も、驍名を殘せり、足下に三峰川の急流を隔て五郎山に對し園内樹多し、郡内第一の公園なり。
浪合村	大鹿村	座光寺村	川路村	高遠町

西筑摩郡				
中央アルプス	南アルプス	木曾福島スキ場	田立ノ瀧	御嶽山
中央アルプス(木曾山脈) 上、下伊那と西筑摩との郡界を劃して、延焼南北に亘れる山勢頗る雄大、高山性に富む山脈を云ひ、駒ヶ岳(二、九五六米)、空木岳(二、八六四米)、南駒ヶ岳(二、八四二米)等著名なり。	南アルプス(赤石山脈) 一上、下伊那に東を限り、駿甲二州の西境に連りて、南北に亘れるものにして、三千米を超ゆるもの赤石岳(三、一二〇米)、仙丈ヶ岳(三、〇三二米)を初め、八座二千五百米を超ゆるもの二十座に達す。	木曾福島より一里黍尾が原一帯にして、雪質良好、山岳スキーの練習地、木曾福島より自動車及馬の便あり。	木曾川の兩岸相通りて千麓万狀を極め山水奇岩を以て古來より木曾路第一の勝と呼ぶ、東岸に臨川寺(禪宗)あり眺望頗る佳。(福島町より二里半上松驛より十數町)	海抜三、〇六三米、全山輝石安山岩より成り頂上剣ヶ峰に御嶽神社あり、六根清淨の聖山を眠ふ、攀路二あり三岳村黒澤口(頂上迄八里)と王瀧村王瀧口(頂上迄十一里なり、福島町より里程とす)
			上松町	三王瀧村
			田立村	關田村

東筑摩郡

山清路	筑摩アルプス	温泉
<p>麻績驛より麻績生坂の兩山迫りて斷崖絶壁を爲し麻績川に臨める曉香切新道の奇勝を採り其の景の盡くる所豁然として津川に臨む。之より沂ること僅にして山清路の奇地あり、南岸は生坂村に屬し北岸は北安曇郡廣津村地籍にして怪石奇岸川に迫り山姿水容其の景を恣にする處長橋を架せり。ツ、ジの咲く頃最佳なり。</p>	<p>松本より三里乃至五里の地點に袴腰、鉢伏、美ヶ原の連峰を總稱す。一日行程の旅客キャンプに適す、北アルプス連峰、中央アルプス、南アルプス、富岳の麗峰、頭をめぐらせれば信越に蟠婉する妙高連峰一眸の中にさまる眺望を有す。登山路頗る緩、婦女子の登山、冬季のスキ一登山の好適地なり。</p>	<p>淺間温泉 松本市の東北二十丁東に本郷山麓へ南西は遠く廣野開け遙かに日本アルプス連峰を望むを得、且つ競管運動場を控へ四季の保養に好適なり、浴場百に垂んとし浴客夥し、泉質何れも單純泉なり（松本驛より電車自動車の便あり）</p> <p>山邊温泉 東北に御殿山を負ひ南西は遠く展開し眺望に富み附近千鹿頭山、廣澤寺鬼川寺の巨刹及徳川家康の廟有親父子の舊蹟兎田等あり。（松本市の東北一里餘、自動車の便あり）</p>
<p>東筑摩郡生坂村、北安曇郡廣津村</p>	<p>本郷村</p>	<p>里山邊村</p>

南安曇郡  
北安曇郡

中部山岳国立公園

二軒に及ぶ大雪溪を包蔵し、夏尙寒き高山峻嶺は百座に及ぶ巍然たる大連嶺を形成し雪溪美豊なる高山植物、隨所に湧出する温泉、上高地、峡谷美を有し峻烈豪壯神秘なる我國山岳美の極致を此處に集中せるものなり。

本山岳一帯が大正十年内務省に於て国立公園の調査を開始せられ以來其の候補地の一として傑出せる風景地の眞價を認められ、縣民一同の熾烈なる要望を容れられ昭和九年十二月国立公園として指定せられたるものなり。

●増ヶ岳 嶄然として聳え標高三、一八〇米、直立天空を衝き、槍の穂の如き嶺山である。文政九年八月播磨上人によりて開山せられたりと傳へらる。その肩三方に引き、北西に走るものを西鎌尾根と云ひ、三俣岳より分れて一は樂師、鷲岳より立山に連り、他は鷲羽、針ノ木岳より透かに白馬に亘る、北東に走るは東鎌尾根と云ひ、大天井、燕岳を起し南は直ちに徳高連峰と肩を接す、雲の去來に心氣を鼓し、勢を洗ふ時、人始めて自然兒に還るの感あり。

●燕岳 高さ二、七六三米、山頂花崗岩の風化によりて成れる奇岩の間を點綴する鷹松から連山を望むは、眺望絶佳にして、大天井岳を経て槍ヶ岳への縦走は「山の垂直」として道路設備もよく其の名知らる。

●乗鞍岳 山頂は燄火山壁及火口丘等群起伏し其の間に數箇の小火山湖あり、山深く積雪多く、四時残雪をとむ、上高地と共に近時は唯一のスキ一場なり。

本縣區域  
南安曇郡  
安曇村、烏川村、西穂高村、有明村  
北安曇郡  
常盤村、平村、神城村、北城村、南小谷村、北小谷村



●上高地 穂高岳、燒岳、霞澤岳、六百山等の群峰に圍まれ東西四里南  
北半里に至る海拔五千尺の溪谷にして、アルプスの粹を集めたる處  
梓川之を貫流し、千古斧鉞を入れざる處女林は白樺を雜へて美しき  
林相を呈し、又明神池、大正池等を始め所々に池沼あり、玲瓏透徹の  
中に岩魚の遊ぶを見る、眞に豪宕にして幽遠溪谷の首位として日本  
八景の一に推され、縣管上高地ホテル在り、近時此地にキャンピング生  
活をなすもの年々増加し、緑樹の中溪流の畔テントの點々たるを見  
る、將來避暑地として又遊園地として天下に冠絶するに至るべし。

●白馬岳 信濃越中越後の國境に跨る海拔二、九三三米、山麓北城村  
より頂上迄五里登攀容易ならずと雖も日本アルプス山系中最も奇勝  
多く、即ち山腹蕨平より溪間約二里に亘り悉く四時氷雪を以て覆は  
れ氷河の痕跡ありと稱せられ且高山植物密生して盛夏の候恰も一犬  
花園を見るが如し。而して夏季登山者此處に最も多し。

●中房温泉 有明村字宮城より中房川を渡りて有明山の西麓にあり泉  
質硫酸泉にして夏秋の候浴客群集す、附近勝地少なからず、有明山  
頂へ一里半。

●白骨温泉 安曇村大野川字白骨にあり海拔三、一七尺、飛騨信濃の  
國境にありて北に燒岳を貫ひ南は乗鞍岳に接し西は絶壁の溪流に臨  
む、泉質硫酸泉にして夏季浴客頗る多し。(豊科町松本市より各十  
二里餘鳥々迄電車の便あり)

●葛温泉 (大町を距三里) 平村の川中高瀬川の邊に湧出す、海拔二、  
八四七尺、夏季浴客少からず。(泉質塩類なり)

北安曇郡

木崎湖中綱湖 青木湖	アルプススキ 場	温泉	登波離橋	川中島古戰場
青木湖は三湖中の大なるもの、木崎湖は大町に近く(一里餘)、中綱湖 は兩湖の中間に在り、共に稱して安曇三湖と云ふ、本崎湖畔には仁科 氏の城跡あり、之と相對せる湖岸日本アルプス連峰を眺望する所に夏 季大學、農林省水産試験場木崎分場あり、又冬季結氷してスケート場 として有名なり。	大嶺南線信濃森上驛下車、白馬山麓、白馬大池、落倉、親ノ原、千國 に亘る大高原スキ場なり、最近開發されたるものにして、冬季スキ ー登山、練習地として亦競技合宿練習地として來場するもの年々増加 す。	小谷温泉 (大嶺南線中土驛より自動車の便あり) 越後の國境に在り 泉質炭酸泉なり、山間にして夏季浴客多し。	白駒山の山嶺斷崖より斷崖に架したる橋にして、其の周圍には老樹奇 木鬱蒼とし春は櫻、藤、躑躅等咲き亂れ、秋は満目紅に染まりて其壯 觀絶佳なり、附近に白駒城址、樹玉社、二本松の名勝あり、詩人、學 徒、墨客の來訪絶へず。(池田町より東一里)	長野市の南方(二里)岸、千曲二流の合する一帯の地是なり、天文二十 二年より永祿四年迄上杉武田兩氏の十八年間龍虎撃の激戦ありし有 名の古戰場なり、附近八幡原を始め戦蹟頗る多く、尙附近なる典厩寺 には遺物多くありて昔を偲ぶものあり。(長野市及川中島驛より自動 車の便あり)
平 村	北 城 村 南 小 谷 村	中 土 村	陸 郷 村	小 島 田 村

更級郡	埴科郡	上高井郡
姨捨山	温泉	臥龍山
中央線姨捨驛を距る僅に三丁、古來觀月の勝地として所謂「田毎の月」の名海内に著はる、長樂寺境内に高五丈横十間餘の巨石あり姨石と謂ふ、右に當りて満月殿あり、觀月堂は本堂に接す。	上山田温泉 (戸倉驛より二十丁)、泉質硫酸黄泉なり、北隅に八王子山を負ひ、前は千曲川に臨み附近城山の古跡佐良志奈神社等あり、戸倉温泉と軒を列べて旅舎あり、浴客頗る多し。	須坂驛より十町東南須田に在る丘陵なり、全山赤土にして奇松、枝を交へ間々ツ、ジ、櫻樹あり花季の眺望最も佳なり、山上に須坂藩主堀家の廟所、同藩主の招魂社等あり、遠く望めば千曲川を隔て善光寺平を一眸に集め山麓に龍ヶ池ありて須坂唯一の遊園地とす。
八幡村	上山田村	須坂町
	戸倉村	仁禮村
		山田村
		米子の瀧
		山田温泉 (須坂、小布麻、中野各驛より三里自動車の便あり)、山田村大字奥山田に在る塩類泉なり、海拔二、五七一尺、夏冬の候浴客頗る多し、附近にスキ場あり。
		温泉

下高井郡	埴科郡
温泉	湯田中より一里弱、平穩村角間川の上流字坊平にあり、高三百九十尺巾六十二尺、斷崖絶壁の間に懸りて頗る壯觀なり、此地一帯秋季紅葉の早きを以て名あり。
野澤温泉 飯山線野澤温泉驛より一里強、河東線木島驛又は飯山町より三里弱自動車の便あり、豊郷村大字野澤に在り、泉質硫酸黄泉なり、浴場敷多あり、地勢越後の國境に近く浴客スキ客等來集する者近時著しく増加す。	湯田中温泉 泉質塩類と硫酸泉の二種あり、浴場敷ヶ所を設け四時浴客多し、附近に湯平公園あり。(電車自動車の便あり)
	安代温泉 (湯田中驛を距八丁)、塩類泉にして横湯川に臨み風趣に富み浴客頗る多し。
	上林温泉 安代と接續し泉質亦塩類泉にして浴場多く浴客賑へり。
	土地高燥にして眺望快瀟たるを以て夏季浴客少からず。
	地獄谷 温泉より一里弱字地獄谷横湯川の溪間に在り、熱湯常に岩石の間より噴出し蒼々たる音響は山を震憾し煙霧山腹に散し眞に一奇觀なり、沿岸に一亭あり傍に浴室あり延命湯と稱す。
	角間温泉 穂波村大字佐野の東にあり、浴室少からず金創脚氣火傷等に効ありとて遠近より浴客集來す、泉質塩類泉にして湯田中驛より一里弱とす。
	豊郷村
	穂波村
	平穩村
	平穩村

野澤スキー場	志賀高原	裾花峽	戸隠神社
<p>スキー季節は十一月末より四月上旬に至る、積雪丈餘、雪質良好にして、斜面の變化に富み、年々来るもの數千人、ハンネスシュナイダー氏の美技を十分發揮したる各スロープ、全國第一のジャンプ臺、第二回明治神宮競技會場となりたる以後は特に來場するもの多し。</p> <p>長野電鐵終點湯田中驛より一里半、スキー季節は十二月より四月に至る積雪數尺、四千尺の高原にして斜面の變化に富み各所にヒユツテの設備、温泉宿ありて山岳スキー家の愛好地なり。</p> <p>附近に上林温泉スキー場、夜間湖スキー場ありて來場するもの年々増加す。</p>	<p>裾花峽は長野市の西北を流る、裾花川上流十三里餘の溪谷の總稱にして、對崖眉を歴し峰巒聳立し崖下は蒼潭急流相次ぎて或は瀑となり淵となる。迂餘曲流の間春の蘆ツツジ夏の深緑冬の雪溪秋の紅葉等四時の風光佳ならざるはなし。(善光寺より十八丁自動車の便あり)</p> <p>奥社は戸隠前山の山腹に在り、祭神は天手力男命にして、草創は孝元天皇即位五年と云ひ傳ふ、國幣小社たり。地高燥にして空氣清爽、夏季避暑する者漸く多く、殊に秋季紅葉の候雅客杖を曳く者亦少からず、又山中勝跡多く夏季登山者年々其の數を増加しつゝあり。(長野市を距る五里自動車の便あり)</p>	<p>芋井村、小田切村、櫛村、戸隠村、鬼無里村</p>	<p>戸隠村</p>
豊郷村	平糴村	芋井村、小田切村、櫛村、戸隠村、鬼無里村	戸隠村

野尻湖	安茂里の杏	飯山スキー場	正受庵
<p>一名芙蓉湖と云ふ、周圍三里形彎曲して琵琶に似たり、湖中琵琶島あり市貴姫神を祀る、東に斑尾山峙ち湖中に其の影を寫し、山水の美云ふ可からず、夏時水溫高く水泳競技場完備し漁遊に亦可なり、近時別荘増加し内外人の避暑地として又キャンピング適地として賑ひつゝあり。(海拔二、一五八尺柏原驛より三十丁自動車の便あり)</p> <p>長野市外安茂里村は一村悉く杏花を以て著はる。北に山を負ひ南に桑園參籠を隔て、犀川の清流を繞らし、紅雲一抹茅屋を覆ふの狀一奇觀なり、字久保寺の山腹に觀音堂あり、年々四月十八日を以て縁日となす、恰も花時に當りて士女の遊覽する者多く殊に其の境内より下瞰する眺望益々佳なり。信濃名産杏は此の地の産とす。</p> <p>信越縣豊野驛とり岐る、飯山線の飯山驛下車、又は信越線屋代驛より岐る、河東線の終點木島驛下車(約十丁)にあり。</p> <p>スキー季節十二月中旬より翌年四月上旬迄にして、神明ヶ丘、城山、坊主山等のスキー場を有し、雪質硬く、ジャンプ臺は設備に於て世界屈指のものにして競技會場として北日本に其の比を見ず、尙町内にスキー製作所、旅館の設備完備せり。</p>	<p>飯山町、上倉山の麓にあり、庵は白隠禪師の師、惠端禪師の草庵なり地域廣からざるも土地高く展望に富み、亦禪師が自ら作れし庭は幽韻に富む。</p>	<p>飯山町</p>	<p>飯山町</p>
信濃尻村 古間村	安茂里村	飯山町	





筑美	上	木	大	大	大	霧	和	菅	大	御	高	六
原	原	松	山	山	科	峰	峰	峠	平	平	原	里
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス
キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ
場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場

松	東	同	同	西	下	上	同	同	同	小	同	同	北
本	筑	同	同	筑	伊	伊	同	同	同	同	同	同	佐
市	原	同	同	原	那	那	下	同	同	同	同	同	久
近	入	同	同	上	那	那	諏	同	同	同	同	同	郡
郊	山	同	同	島	飯	飯	訪	同	同	同	同	同	井
村	邊	同	同	松	田	田	近	同	同	同	同	同	澤
村	村	同	同	島	那	那	郊	同	同	同	同	同	町

桑	飯	柏	飯	野	志	木	夜	上	笠	地	中	小	落	猿	細	乘	猿	鉢
川	山	原	網	澤	賀	賀	間	平	嶽	峠	山	倉	倉	倉	野	鞍	香	山
ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス	ス
キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ	キ
場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場

同	下	同	上	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水	水
内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内	内
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
信	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野
濃	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野
尻	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野
村	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市
古	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野
間	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市
村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村

一、スキー、スケート場

野	松	御	野	瑞	須	上	大	市	伊	岡	中	長	上
尻	川	大	尻	穂	坂	山	町	田	那	那	野	野	田
湖	大	禮	湖	穂	坂	山	町	田	那	那	野	野	田
游	禮	念	湖	穂	坂	山	町	田	那	那	野	野	田
泳	念	長	湖	穂	坂	山	町	田	那	那	野	野	田
場	長	野	湖	穂	坂	山	町	田	那	那	野	野	田
場	野	市	湖	穂	坂	山	町	田	那	那	野	野	田
場	市	野	湖	穂	坂	山	町	田	那	那	野	野	田
場	野	市	湖	穂	坂	山	町	田	那	那	野	野	田
場	野	市	湖	穂	坂	山	町	田	那	那	野	野	田

野	長	瑞	須	温	大	伊	伊	同	岡	長	上
尻	野	穂	坂	泉	町	那	那	野	野	野	田
水	野	穂	坂	泉	町	那	那	野	野	野	田
泳	野	穂	坂	泉	町	那	那	野	野	野	田
協	野	穂	坂	泉	町	那	那	野	野	野	田
會	野	穂	坂	泉	町	那	那	野	野	野	田
村	野	穂	坂	泉	町	那	那	野	野	野	田
會	野	穂	坂	泉	町	那	那	野	野	野	田
村	野	穂	坂	泉	町	那	那	野	野	野	田
市	野	穂	坂	泉	町	那	那	野	野	野	田

同	同	野	陸	野	陸	野	陸	庭	同	野	野	野	野	野	野	野	野	野
上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上	上
球	球	球	球	球	球	球	球	球	球	球	球	球	球	球	球	球	球	球
技	技	技	技	技	技	技	技	技	技	技	技	技	技	技	技	技	技	技
場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場	場

上	下	上	下	上	更	北	下	上	岡	長	上
水	高	水	高	水	級	安	伊	伊	野	野	田
内	井	内	井	内	郡	曇	那	那	市	市	田
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	市	市	田
信	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野
濃	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野
尻	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野
村	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市
古	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野
間	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市	市
村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村

○スケート場

諏訪湖スケート場  
下諏訪秋宮スケートリンク  
上諏訪町管スケートリンク  
海ノ海スケート場

諏訪郡  
同 下諏訪町  
同 上諏訪町  
同

三〇

木崎湖スケート場  
中綱湖スケート場  
松原湖スケート場  
軽井澤スケートリンク  
小坂田公園スケート場

北安曇郡平村  
同 同  
南佐久郡北牧村  
北佐久郡軽井澤町  
東筑摩郡塩尻町

一一、信濃民謡

信濃はやし

○空を照らすは善光寺さまか  
見やれ杏の花も咲く  
春は長野の朝がすみ  
ヨイトヨイヤセの朝がすみ  
○諏訪のスケートスクラム組んで  
走リや氷か白銀か  
糸の岡谷は蘭の山  
○山は湯ごころ須坂は機場  
溢や湯田中ほのくくと  
信濃むすめの雪の肌  
○ぬしのそばなら姥捨山の  
月がいくつに出ようとも  
わたしや更科かまやせぬ

信濃ぶし

○信濃善光寺さんに常夜燈がついて  
いつが日暮れて夜あけやら  
○右に御嶽左に浅間  
ともに善光寺さんの眺めぐさ  
○藤く藤かぬも川中島の  
葦の尾花も風次第  
○犀や千曲は川ではないか  
長野番花川ぢやない  
○日本アルプス谷間の雪は  
夏も知らずに冬となる

北信濃書頭

○ひろい信濃も千曲はひとり

たまにや巻きたい渦もある

○碓氷越えれば沓掛御代田

夢は小諸の懐古園

○なんで上田が素通りなるか

こゝは眞田のやらす陣

○山は戸隠紅葉は燃える

長野おとめの深なさけ

○平糶八湯は一茶も裸

けふも夜間瀬の川越えて

松本民話

○語はんせ 語はんせ

信州松本入馬千駄  
出馬千駄のこゝろいき

○櫻、花、楊、花

咲いてゐるのに啼くほとゝぎす  
雪も消へぬに夏となる

○街中を まち中を

練るとお神輿あれるよお獅子  
搦ぢや／＼もびとさかり

○奈良井川 奈良井川

木曾を出て来て松本平  
思ひ増す水さそふ水

上田小唄

○のぼる朝日は 太郎山のほとり

松に色濃い だて姿

○人は變れど 想ひはのこる

華のご城趾 夢の跡

○縁になりたや 置の縁に

いとどしお方の上田 綺

○花の上田の下道小道

今もあの娘のあで姿

信濃道分

○浅間根腰の焼野の中で

あやめさくとはしほらしや

○西は追分 東は關所

關所越えれば旅の空

○碓氷峠の 権現様は

主のためには守り神

○浅間山から出て来る水は

雨も降らぬにさゝにこり

○浅間山さんなぜ焼けしやんす

腰に三宿もちながら



望月小唄

○私しや信州望月の生れ

山家育ちでも實がある

○鹿曲峽に咲き出た花は

意氣と情の色もよう

○俺が望月殿居の城の

胸に乗せたい逢はせたい

○御牧野に咲くあの鈴蘭は

過ぎし月毛の語りぐさ

○南蓼科北では浅間

間の望月駒の里

小諸小唄

○イ、ジャナイカイ 信州小諸

花に城浮く 懐古園

○イ、ジャナイカイ 信州小諸

雲の浅間に立つ煙

○イ、ジャナイカイ 信州小諸

月に棹さす 千曲川

○イ、ジャナイカイ 朝霧暗れて

裾野三里は 萩桔梗

○イ、ジャナイカイ 古城のほとり

眺め不開の 酔月峽

別所小唄

○連れて行かんせ観音さんへ

今年十九の厄除けに

○吹くな春風別所の戻り

あたら湯花の香がさめる

○戀の病に薬の御湯と

七湯七苦離名を流す

○青葉若葉の別所の里は

深山からすを御湯で聞く

○別所名物かすくあれど

主へみやげは玉の肌

菅平スキー小唄

○絆なセーターにスキーをつけて

行からよ信濃のシユワルツワルド

日本ダボスの菅平

タララツタジクザツクスキーで走る

すべろスローア菅平

○曉の處女雪銀盤踏んで

登る猫岳心も躍る

同じルートの後や先

○銀のコースは何處までつゞく

雪の白樺乙女の素足

胸にや吹雪の花が咲く

○雪の高原吹雪に暮れりや

月は白銀乙女の心

遙かホテルの灯が招く

スケート節

○諏訪のスケート手に手をとりにて

おしのつがいか群れ胡蝶

○諏訪へくと皆な行きたがる

諏訪に湖水があればこそ

○諏訪の湯の花梢は白く

つもる話は寝てとける

○諏訪の岡谷でとり出す縁は

世界の市場を支配する

霧ヶ峯小唄

○見わたせば

北にアルプス南にや富士よ

こゝは天下の霧ヶ峯

○霧ヶ峯

霧ぢやありやせぬありやスキーヤーの

意気で飛ぶ雪けむり

○五千尺

銀のスロープ伊達には積まぬ

可愛いスキーヤーの度胸だめし

○ほのくと

若いスキーヤーの唄から明ける

諏訪は湯の町雪の町

伊那節

○木曾へ木曾へつけ出す米は

伊那や高遠の餘り米

○嫁はにこく夕餉の仕度

かいた蠶繭に月がさす

○天龍下ればしぶきに濡れる

持たせやりたや檜笠

○遙か向ふの赤石山に

雪が見えます初雪が

○桑の中から小唄がもれる

小唄き、たや顔見たや

龍峽小唄

○天龍流れて稲穂は黄金

繭は白金お國自慢の天龍峽よ

○伊那の黒土ふみくござれ

河は天龍山は赤石見てござれよ

○河を距て、灯が見へる

親をびく灯か物を縫ふ灯か戀の灯かよ

○川路龍江を結ぶの神の

かけた虹かや姑射の釣橋皆渡ろよ

○岩を傳ふて舟曳く人の

唄に合せて可愛目白がちろろ啼くよ

木曾節

- 木曾の御嶽夏でも寒むい  
裕やりたや足袋よそへて
- 裕ばかりは遣られもすまひ  
襦袢仕立て、足袋よそへて
- 心細いよ木曾路の旅は  
川の鳴く瀬と鹿の聲
- 木曾の名所はかけはし寢覺め  
山で高いが御嶽山
- 木曾の名木あすひにひのき  
さわらねすこにこうやまき

鹽尻甚句

- 行からか鹽尻歸るか洗馬へ  
こ、が思案の桔梗ヶ原
- 主は今頃桔梗ヶ原あたり  
薄尾花をつれとして
- 床尾平出大門かけて  
烏鳴けく粟と鳴け
- 洗馬の射松日出塩の青木  
内裡屏風の畫にごさる
- 塩尻峠で牡丹餅投げりや  
金井柿澤一とねばり

淺間小唄

- 淺間湯の街や松本だいら  
山や谷間の蔭ぢやない
- 女鳥羽河原にかじかが啼くが  
わたしや別れに湯場で泣く
- 日本アルプス淺間の宿ぢや  
庭の景色でひと眺め
- かけひづたひに湧く湯はながる  
逢ひに行く夜は聞づたい
- 山に木の葉がいろづきそめりや  
日本アルプス雪を待つ

安曇節

- 白馬八月残りの雪を  
割りて咲き出す花のかず
- 何か思案の有明山に  
小首かたげて出たわらび
- 鹿島男は皆山かせぎ  
女借馬通ひ作
- 夏も涼しや木崎湖行けば  
岳の白雲舟で越す
- 小手をかざして上高地を見れば  
槍や穂高は雲の上

大町小唄

- 山にのぼるかヨのぼるか山に  
みそら十里は岳の町
- 山を下ろかヨくだるよ山を  
夜の安曇野光る町
- 北は白馬ヨ南は穂高  
ごちら立山思案町
- 蓮華夕映えヨ安曇野日和  
月か日町か星の町
- 小島焼こならヨみやまへござれ  
山は鷹狩霧の町

更級

- 信州信濃の更級蕎麥は  
馬の鼻息ですぐゆだる
- 信州篠の井林檎の名ごこ  
山に山つむ紅がのる
- あちら聞いてりやこちらにすまぬ  
厚と千曲の水の音
- 月の姨捨曇ると照ると  
思ひ捨てずに忘れずに
- 聖山からアルプス見れば  
雪の根雪が空に射す

千曲小唄

- 岩間にげ水ひそく小みち  
木の根草の根わけて来て  
さよめき合へばうわさ末廣千曲川
- 千曲河原のすい／＼はたる  
湯の香く／＼つてまた光る  
川中島にうわさ末廣越路まで
- 千曲河原の夜な／＼戀路  
わたしやむだには通やせぬ  
更科手古奈うわさ末廣戀は意地
- たぎる湯水はひそく地底  
湯みちつくまでわきやせぬが  
燃へたつおもひらわさ末廣色に出る

川中島音頭

- 信州信濃の川中島は  
尿と千曲のあひの鳥
- 妻女ほの／＼越後の勢は  
ねむる海津を見て忍ぶ
- 川は朝霧一鞭あてりや  
なんの八幡武田菱
- 一と目夜のあけきらめく三太刀  
惜しや七太刀ながれ星
- 昔おもへば千曲の水も  
車が、りの音もする

松代ぶし

○色のよいのは松代染よ

見そめ違ひそめ思ひそめ

○人は象山音なら火砲

意気は信濃の山ざくら

○眞田六文銭海津の城よ

今は四ツ葉のうまごやし

○昔や火の山今皆神よ

すそにこんこと水がわく

○やうち行きしよか蟲歌山へ

盆の月夜の蟲聞きに

須坂小唄

○山の上からちよいと出たお月

誰を待つのか待たれるか

○誰も待たない待たれもしない

可愛いお前に逢ひたさに

○可愛わたしは須坂の町に

須坂戀しかあのお月

○お月や工場をちよいと來てのぞく

誰におもいをかけたやら

○わずか離れた須坂と小布施

なぜか小布施は栗(九里)もある

中野小唄

○信州廣くも中野がなけりや

どこに日の照る町がある

○信州中野はお蠶ごころ

中野つむぎの出るところ

○中野生れは氣だてゝ知れる

横に車は押しやしない

○島田結はせて黒姫山に

婿があるなら嫁にやる

○ゆかしなつかし高梨様の

松に昔の風が吹く

平穩小唄

○信州平穩の八つの温泉

花も霞むよ湯けむりに

○浮世はなれた星川べりに

浴み歸りの夕涼み

○瀧の白砂紅葉の錦

かざす湯槽に月も照る

○霞掃ひたる撥の音冴えて

里は湯炬燵置炬燵

○地獄谷から温泉をひいて

山の極樂上林

野澤温泉小唄

○千曲わたれば、野澤の出湯

○わたり鳥さへ、しらぬ鳥さへ

寄るものを

○おなじ咲くなら、野澤のつゝぢ

○一目千雨のおもひくゝの

みだれ咲き

○みがく男の舞臺はこゝに

野澤スキーのまたとありやせぬ

ユートピア郷  
理想郷

飯山小唄

○こゝは飯山スキーの名所

○月や花より雪を待つ

○行かうよ城山神明ヶ丘へ

雪がはれたよ陽が出たよ

○雪の飯山スキーの名所

雪崩ないので誰も来る

○冬の三月を神明ヶ丘は

日毎陽気な人ばかり

○五里や七里はスキーで通ふ

たまに來いと文ほしや

昭和十一年四月二十五日印刷  
昭和十一年四月三十日發行

長野縣

印刷人 長野市大門町九五 塚田七郎

印刷所 長野市大門町九五 合名會社 蕙友商店

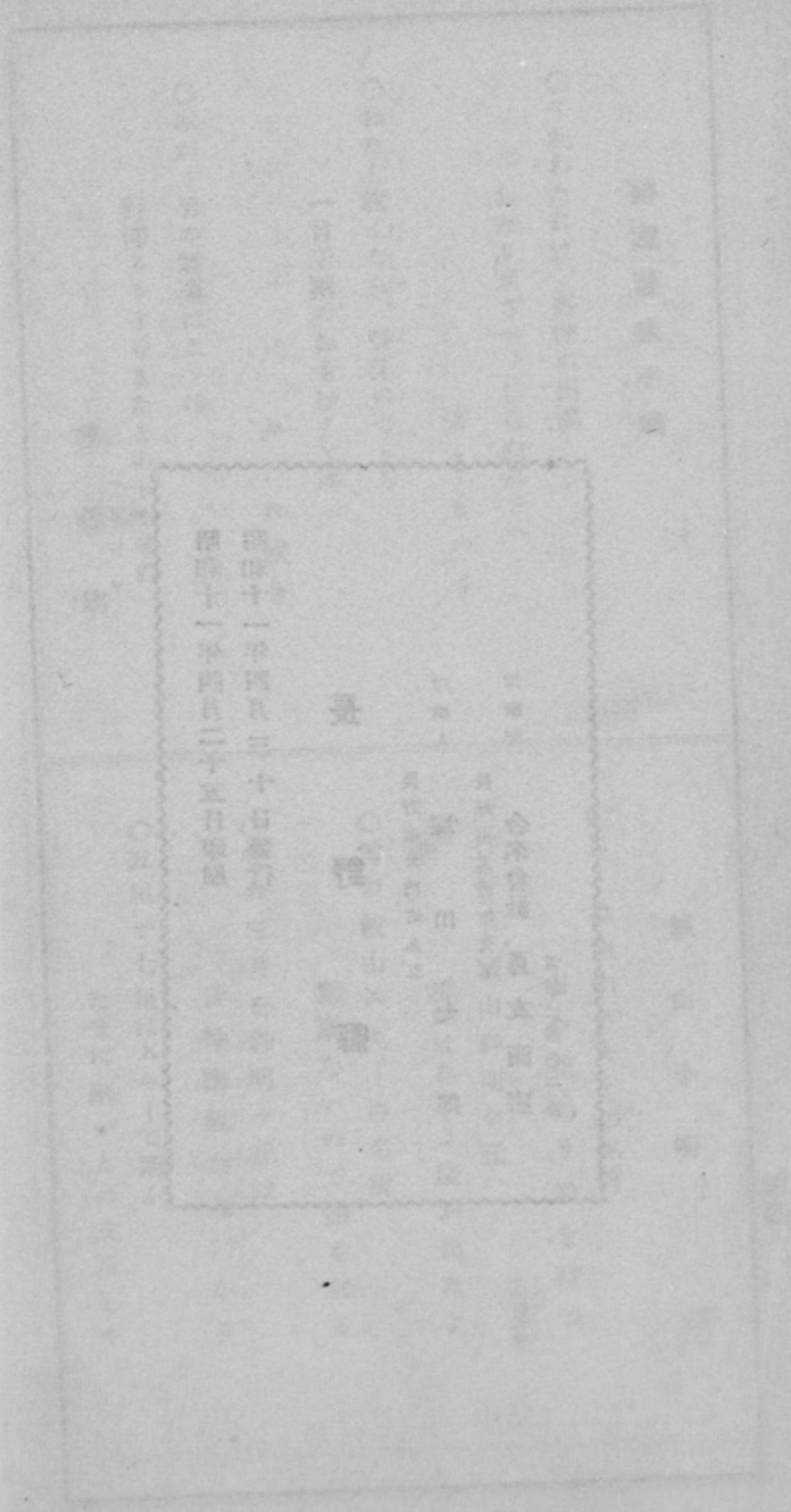
電話二四〇一番

# 長野縣略圖



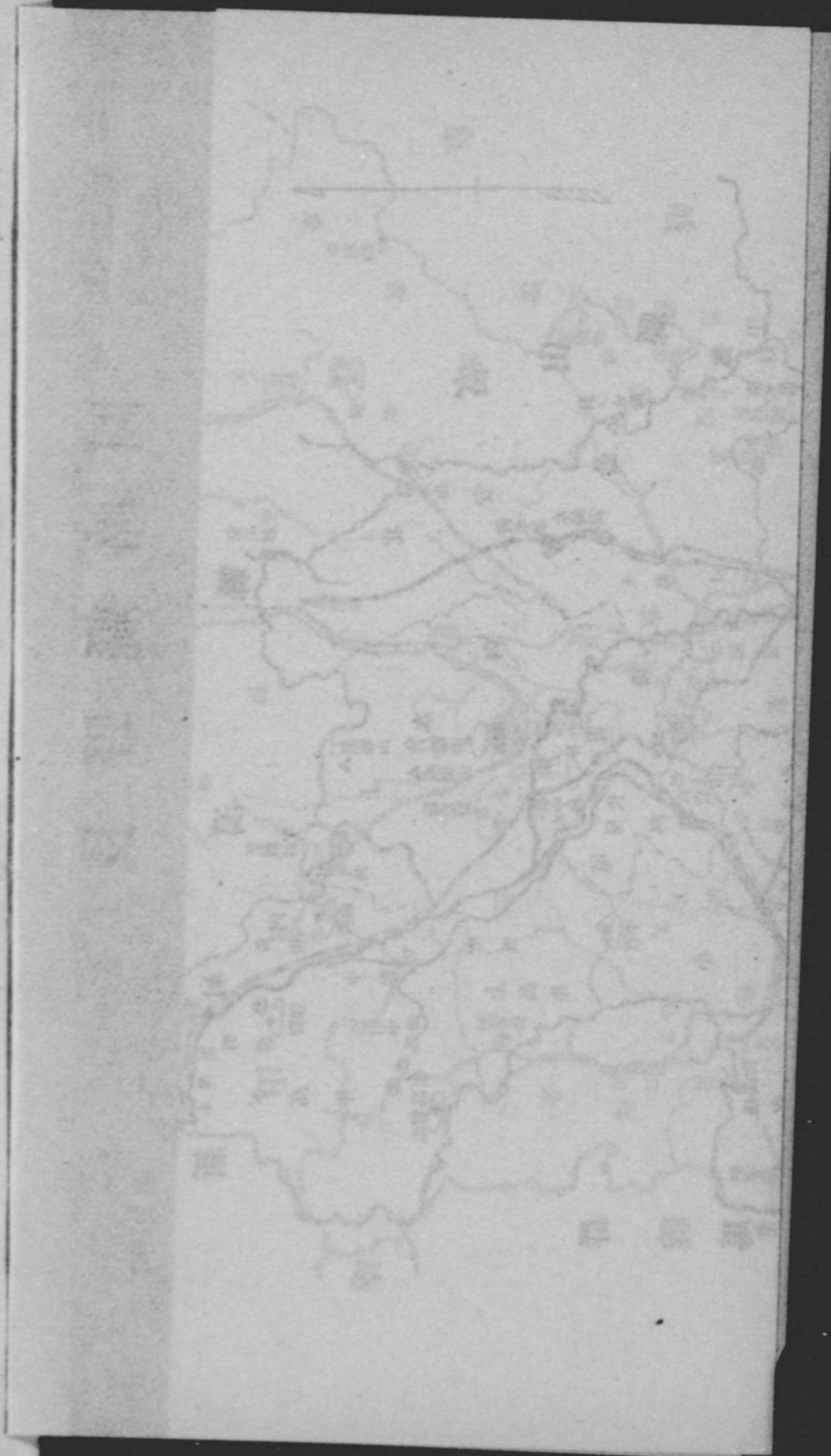
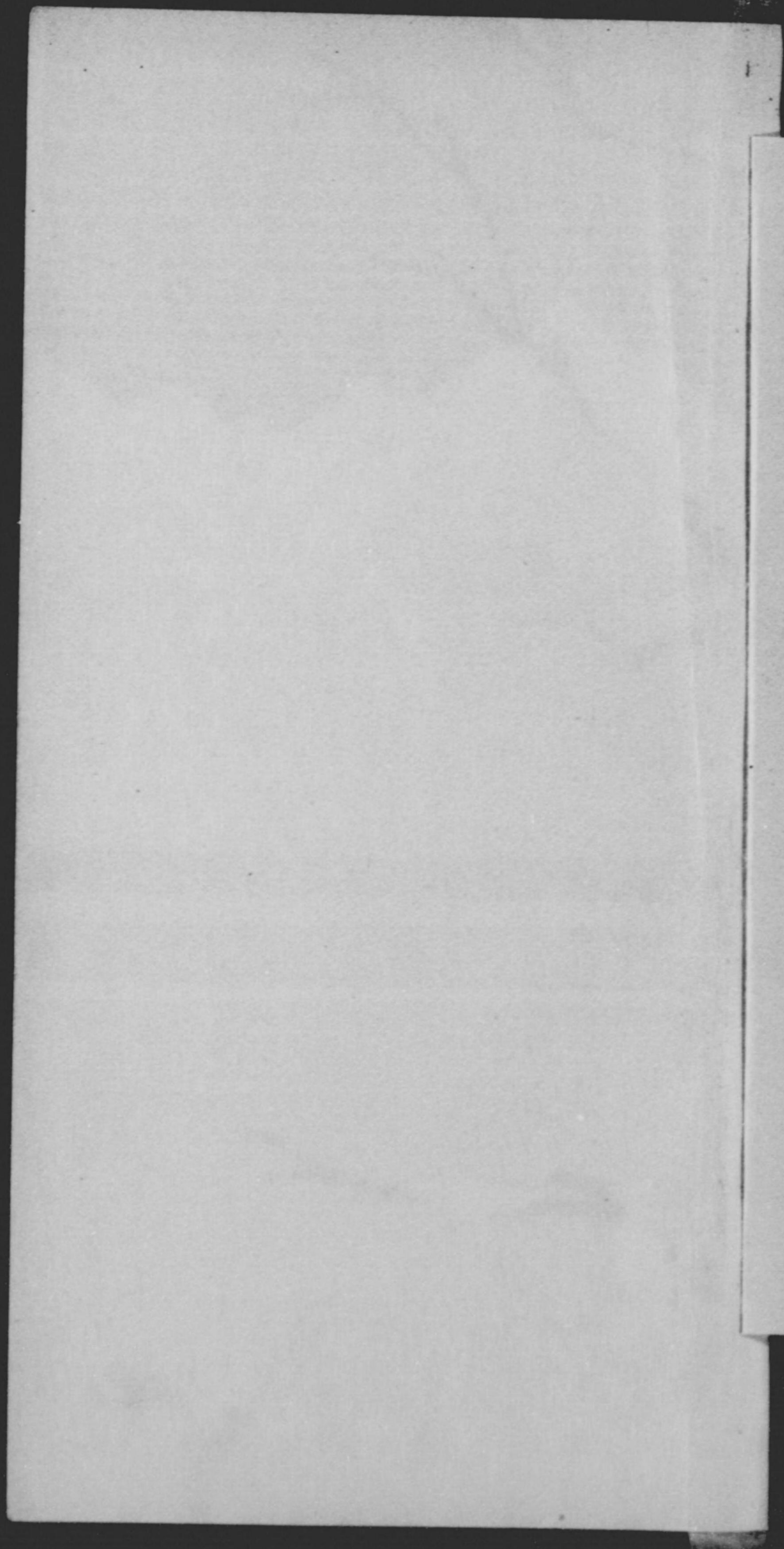
△	山	凡
⊙	市	名
⊙	電	古
⊙	鐵	蹟
⊙	道	蹟
⊙	道	蹟
⊙	場	蹟
⊙	場	蹟

至十千米

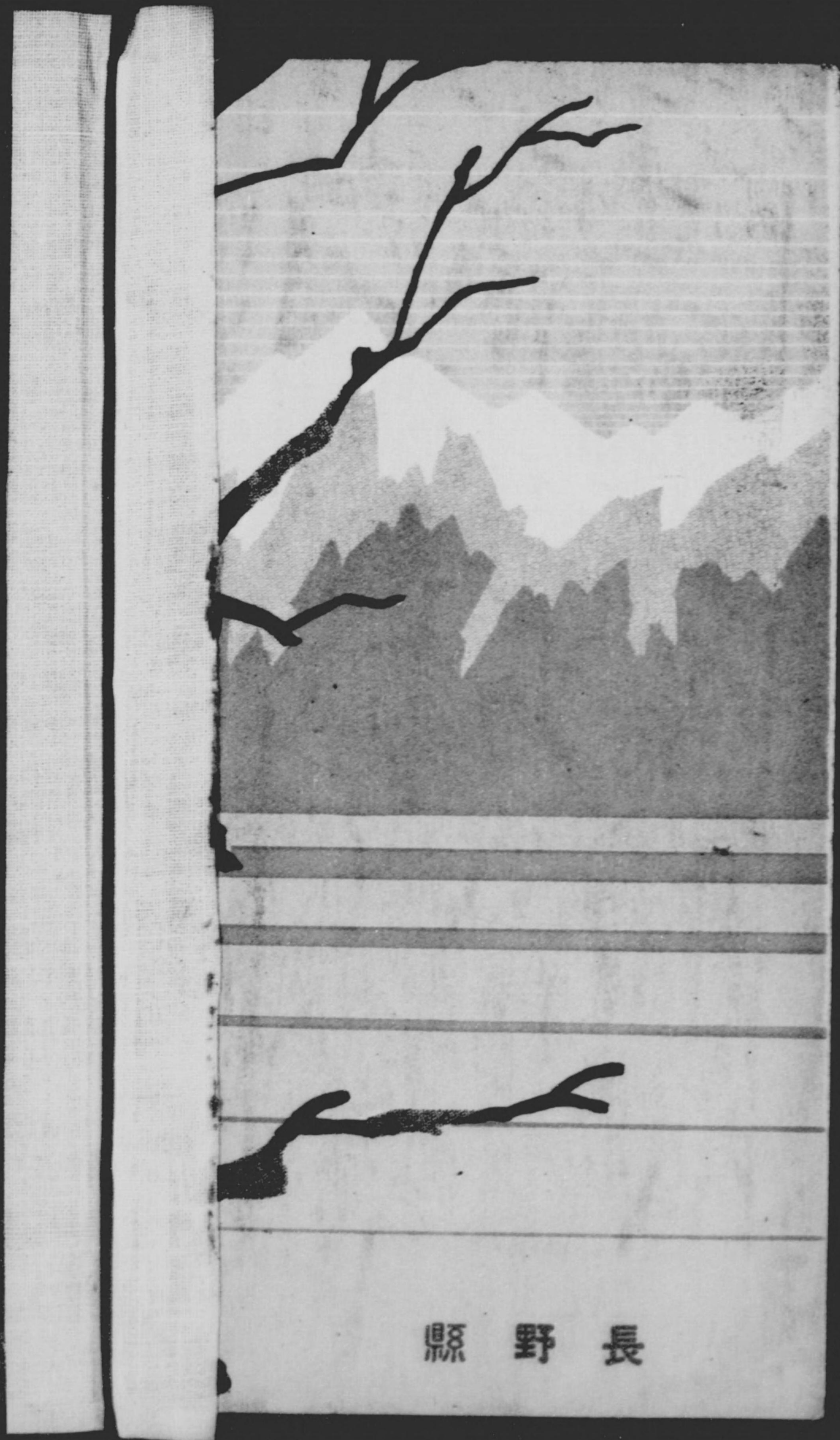








14-4  
1027



長野縣



